

委託事業実施内容報告書

平成21年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語指導者養成】

受託団体名 聖徳大学言語文化研究所

1 事業の趣旨・目的

これまで聖徳大学言語文化研究所では、東葛地域における各市の国際交流協会等が設置する日本語ボランティア等に関する検討、研修に協力し、成人および外国人児童の日本語教育研究のプロジェクトも設置している。

主として（財）松戸市国際交流協会日本語ボランティア教室等の協力の下、教員・学生・ボランティアが連携してこれまで8年間余、集中的に研究、研修をおこなってきた。

平成20年度には、文化庁の「生活者としての外国人」のための日本語教育事業【ボランティアを対象とした実践的長期研修】に「ボランティアのための『成人および子どもの日本語教育』研修講座」を企画応募し、採択された。この研修講座には、多くの地域の参加者があり、好評であった。

このような経緯をふまえ、今回も、蓄積した知的財産を活かし、各市の教育委員会、ボランティア団体などとの連携の下に、日本語ボランティア指導員の研修の場を設け、その指導員の増大と質の向上を図るべく、以下の2つの事業を企画した。

A 職業スキルを活用する日本語教師養成講座

B 地域の日本語教育を指導・助言する上級教師養成講座

（以下、上記各講座をそれぞれA Bと記す）

2 企画委員会の開催について

【概要】 A 職業スキルを活用する日本語教師養成講座

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
5月23日	聖徳大学	北村弘明 真鍋昌子 山口千鶴 西澤清江 藤沢明美 太田静江	本研修講座の企画と研修 目的・意義の確認 1. 役割分担の決定 2. 講座準備の確認事項 3. その他	・退職教員インストラクター等の職業スキルを活用する教授法を見出す教員養成講座とすることを確認。 ・会議録作成、講座記録、講座記録整理、講座補助、レポート整理、見学担当、実習担当、講師接待、写真記録などの役割分担を決定。 ・現時点での応募者人数、受講者の決定と名札作成、案内状配布準備について協議。 ・講座記録用紙、受講者のレポート用紙の項目を確認。 ・日程、場所、講師確認、各会議日設定などを確認。

6月15日	聖徳大学	北村弘明 真鍋昌子 山口千鶴 西澤清江 藤沢明美 太田静江	1. 応募者確認と受講者の選定 2. 名簿の作成と受講者決定通知書の送付の段取りについて 3. 購入図書の再検討 4. 講座のスケジュール確認と今後の予定について	・受講者の定員をどうするか。原則通り、25名とするかを検討。 ・職業スキルの確認、選定の基準を相談。職業スキルの無い人、何も書いていない人もいる。しかし、講座を受けたいと思う意欲がある人、あるいは現在日本語をボランティアとして指導している人が多く、それもスキルになると考えることを申し合わせ。厳密な選定は困難で、検討の結果、広い会場を確保できたこともあり、応募者全員の受講を可とすることに決定。
6月18日	聖徳大学	北村弘明 真鍋昌子 山口千鶴 西澤清江 藤沢明美 太田静江	1. スキル講座受講者の確定 2. 前回打ち合わせの変更及び確定事項（場所・役割分担） 3. その他の確認事項 4. 今後の予定	・受講者の名簿を作成し、地域、自己申告スキルの種類、日本語教育歴などを確認した。 ・受講者人数増に伴う役務の見直し、変更を協議。 ・会場設営と出席管理業務の具体的検討。 ・ディスカッション、ワークショップに係わる事前準備の検討も若干おこなった。
6月29日	聖徳大学	北村弘明 真鍋昌子 山口千鶴 西澤清江 藤沢明美 太田静江	1. 現状の確認 ア) 受講者の出席状況 イ) 授業終了時に書いてもらったレポートの書式を再確認 ウ) その他 2. レポートの提出率とまとめ作業の確認 3. 全体の進行状況と今後の予定確認	・授業終わりに毎回書いてもらっているレポートの「印象に残った点」の項目に多くの記入がある。 ・「講師への質問」の取り扱いについては、後日まとめて答えることにする。 ・レポートの文章等をパソコンに入力する作業は、かなり時間を要するため、担当を4人にする。 ・受講者の態度は熱心だが、途中休憩は必要で、そのタイミングが難しいので、留意しておくことを確認。
7月2日	聖徳大学	北村弘明 真鍋昌子 山口千鶴	1. 次回「ディスカッション」でおこなう「有用なスキルの抽出の応用法」	・各グループ数人程度に分けて実施し、このディスカッションが次回のワークショップへも繋がる内容とする

		西澤清江 藤沢明美 太田静江	についての準備 ア) グループ分けの検討 イ) 各グループの司会者の決定と役割の確認 ウ) 内容・進行の検討・確認 エ) 講師との連絡事項確認 オ) 司会者トレーニングの計画 2. レポートの内容確認 3. その他	ることを確認。 ・メンバーの職業は、学校の教師経験者が多い。他に技術開発、マーケティング、秘書、通訳、図書館読書指導、フラワーアレンジメント、語学教師、IT 経営指導、電子機器開発等様々な職業経験を持っている。日本語ボランティアをしている人が大半を占めているようである。 ・日本語教師として、コミュニケーションスキル、モチベーションスキル、異文化、表現の工夫等が発言されると思われることから、散漫なディスカッションにならぬよう、司会者が内容を整理しながら進行を促す方法についても吟味した。
7 月 16 日	聖徳大学	北村弘明 真鍋昌子 山口千鶴 西澤清江 藤沢明美 太田静江	1. ディスカッションをふりかえって ア) 司会者の反省 イ) グループ別記録の内容検討 2. 次回ワークショップについて ア) ディスカッションの結果とワークショップとの関連づけ イ) 講師との連絡事項確認 ウ) ファシリテーターの決定 エ) ファシリテーター・トレーニングの計画 3. 今後の予定確認 4. その他	1. ディスカッションのグループ別記録例から、司会者から以下のような反省・コメントを確認。 ・本筋に沿った意見を、あまり聞き出せなかった。 ・「まとめる」という作業にとらわれ、十分な話が聞けなかった。 ・話し始めたら、なかなか止まらない人への対応が難しかった。 ・話さない人への対応が難しかった。 ・長い意見の要約が難しかった。 ・スキルの意味を教え方スキルと思いついて入っている人への対応が難しかった。 ・自分の言いたいことを簡潔に言えない人が多いようだ。 ・人の話を聞かない人もいた。 2. 次回ワークショップのファシリテーターを決定し、その役割・留意点など検討。難しい役割なので、数時間の事前トレーニングをすることを検討。

7月25日	聖徳大学	北村弘明 真鍋昌子 山口千鶴 西澤清江 藤沢明美 太田静江	1. ワークショップをふりかえって ア)ファシリテーターからの反省・コメント イ)各グループ別記録からの内容吟味 ウ)ワークショップ結果の全員への還元方法を検討 2. 次回最終回に向けての打ち合わせ 日本語教育における有用なスキルのまとめと開発 3. その他	・ワークショップの各グループ別に提出された実施記録と司会者からの感想等を吟味し、最終日に紹介するものを拾った。 ・スキルの概念を最後にもう一度提示し、再考を促す方がよいとの意見が多く出された。 ・それまでのスキルがそのまま日本語教育に通用するものばかりでなく、少しそこに日本語教育ならではの留意点を意識することで、より有用なものになる可能性があることは強調されてよいので、最後にそれを提示したい。
8月1日	聖徳大学	北村弘明 真鍋昌子 山口千鶴 西澤清江 藤沢明美 太田静江	1. 講座を終えての反省 2. 次期講座(地域の日本語教育を指導・助言する上級教師養成講座)にむけての準備 3. その他	・回数、科目内容、時間、会場、講師、講師補助、模擬授業、ディスカッション、ワークショップ、出席状態、各役割担当者の業務などを、個々に振り返り、再考した。 ・最終日に受講者から提出されたアンケート結果について、整理、分析した。 ・次期の新講座へも活かせる成果と、改良して臨まねばならない点について検討。 ・次期の新講座の企画、委員会の日程について協議。

【写真】(会議風景) A 職業スキルを活用する日本語教師養成講座



B 地域の日本語教育を指導・助言する上級教師養成講座

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
8月24日	聖徳大学	北村弘明 真鍋昌子 山口千鶴 西澤清江 藤沢明美 太田静江	1. 申し込み状況の確認 と、受講者の選定 2. 講座スケジュールの確認 と業務担当者の決定 3. 事前準備の検討 4. その他	・40名近い受講申込者の扱いを検討。講座の性格や受講対象の要件などから、当初の原則どおり25名の定員でおこなうことに決定。申込書類に書かれた事項等（研修歴、日本語教育歴、所属団体での担当など）を参考にしながら、受講者を決定した。 ・受講通知とスケジュール表を送る段取りの検討。 ・今期の講座内容とそのスケジュールを確認。 ・会議録作成、講座記録、講座記録整理、講座補助、レポート整理、見学担当、実習担当、講師接待、写真記録などの役割分担を決定。 ・受講決定者の名札作成、案内状配布準備について協議。 ・講座記録用紙、受講者のレポート用紙の項目を確認。 ・日程、場所、講師確認、各会議日設定などを確認。
9月19日	聖徳大学	北村弘明 真鍋昌子 山口千鶴 西澤清江 藤沢明美 太田静江	1. 受講者の確認 2. レポートの提出率と まとめ作業の確認 3. 講座環境の検討 4. 変更事項及び確認 5. その他	・第一回目の研修を終えて、スタート段階での現状と問題点を検討。 ・一部、講座日程と内容の変更が必要になった部分について確認。 ・第一回目の受講者レポートから、講座のレベルと受講者の理解度とのバランスを考察。 ・研修における日本語教育能力検定試験に関する内容の取扱いについて検討。 ・講師補助者の具体的な役割とその準備事項について検討、確認。 ・講師および講師補助者との連絡徹底について確認。

10月1日	聖徳大学	北村弘明 真鍋昌子 山口千鶴 西澤清江 藤沢明美 太田静江	1. 現時点での講座状況について 2. 受講者の出席率と講座への感想、希望内容について検討 3. 授業記録などのまとめ方について 4. その他	・上級講座ということで、内容が「日本語教育能力検定試験」レベルに設定してあるため、理解が困難と思われる受講者が何人かいるようである。それに対する処置と今後の対策について検討。 ・レポート用紙に書かれている質問が、前期の講座(職業スキルを活用する日本語教師養成講座)より、かなり少ないように思われることについての考察。 ・現時点での経費の確認。 ・コーディネーターと講師との意見調整について留意事項の確認。
10月5日	聖徳大学	北村弘明 真鍋昌子 山口千鶴 西澤清江 藤沢明美 太田静江	1. 受講者の理解度と感想について 2. 講座開設目的の達成度について 3. 本講座と地域ボランティア団体等の現状との関連について 4. その他	・単なる知識増大の講座とならぬように講師などとも意見調整を確認。 ・講座の目的は、地域の日本語教育を適切に指導・助言できる教師の養成にあることを踏まえ、具体的にどのような方法で「助言」や「指導」をおこなえば効果的なのか、といった面について今後は多く言及していくべきではないか、との意見が多く出された。 ・地域ボランティアの現状を、受講者から率直に聞く機会を作りたいとの意見に従い、講座修了後の懇親会実施についての案も検討。
10月10日	聖徳大学	北村弘明 真鍋昌子 山口千鶴 西澤清江 藤沢明美 太田静江	1. 講座を終えての反省 2. 各記録および受講者アンケートの内容についての考察 3. 今後の検討課題 4. 経費の確認について 5. その他	・回数、科目内容、設定レベル、時間、会場、講師、講師補助、出席状態、各役割担当者の業務などを、個々に振り返り、再考した。 ・最終日に受講者から提出されたアンケート結果について、整理、分析した。 ・報告書作成に向けての準備作業を確認。各役割を決定。 ・本講座における経費の確認。 ・今後も、研修を受講したメンバー

				が定期的に集い、各自の現状報告や意見交換等を積み重ね、より広い視野と豊富な情報を得られる機会を随時、設けていく計画をたてる必要があるとの認識を確認。具体的な方策を次期プロジェクトに委ねることを決定。
10月22日	聖徳大学	北村弘明 真鍋昌子 山口千鶴 西澤清江 藤沢明美 太田静江	1. 前期講座と今期講座との報告書作成について 2. 経費の確認 3. 講師および講師補助者からの意見・感想を考察 4. 講座を終えての今後の市民ボランティアへの還元方法と活動計画について 5. その他	・前期講座(職業スキルを活用する日本語教師養成講座)と今期講座(地域の日本語教育を指導・助言する上級教師養成講座)との報告書を作成するための具体的資料整理、意見・感想のとりまとめ。 ・今回の講座でおこなった内容をどのような形で各団体に還元すべきかについて検討。報告書の配布、報告会、別に設ける研修講座の企画、等の案が出された。 ・来年度に向けて継続事業とした方がよいと思われる内容について検討。外国人の「地域社会適応」のための日本語教育、「地域社会参加」のための日本語教育という視点がより協調されるべきではないか、との意見が出され、今後のプロジェクトの課題とすることに決定。

【写真】(会議風景) B 地域の日本語教育を指導・助言する上級教師養成講座



3 養成講座の内容について

(1) 養成講座名

- A スキルを活用する日本語教師養成講座
- B 地域の日本語教育を指導・助言する上級教師養成講座

(2) 養成講座の目標

- A
 - ・自分のこれまでの職業スキル（技能）を、会話能力の指導において有効に活用する部分を見出す。
 - ・自分の職業スキルの活用により、短期間で出来るだけ即戦力にも繋がる指導法を考案出来るようになる。
- B
 - ・地域のボランティア日本語教室にあつては、その指導方法の研修形態もさまざま、十分なノウハウを習得できないまま、確信のないやり方で指導をせざるを得ない指導者も増えている。このため、日常的に、随時、適切な指導、助言を施すことの出来る人員の育成をはかる。
 - ・さまざまな問題（教授法、日本語学）に適切に対応し得る幅広い技能、方法論を身に付け、知識面においては、「日本語教育能力検定試験」合格水準を目指す。

(3) 受講者の総数 A 37 人
 B 25 人

(4) 開催時間数(回数) A 30 時間 (10 回)
 B 24 時間 (8 回)

(5) 参加対象者の要件

- A 退職後、あるいは仕事の余暇を利用して、自分の職業スキルをさらに活用する方法を探究する意志があり、日本語教育（特にサバイバル日本語の指導）に関心のある方。または、これまで日本語教育指導をしてきた経験を踏まえ、さらにレベルアップをはかろうとする意志のある方。
- B 地域での日本語教育のレベルアップ研修、指導に関心のある方。または、これまで日本語教育指導をしてきた経験を踏まえ、さらにレベルアップをはかろうとする意志のある方。

(6) 受講者の募集方法（A、B 共に共通）

- ・東葛地区における各市の国際交流協会・教育委員会・公民館および地域の日本語学習室等宛に募集要項を郵送。
- ・聖徳大学 HP に募集要項を掲示。（以下は募集用のチラシ）



平成 21 年度 文化庁日本語教育委託事業
聖徳大学 言語文化研究所 主催

職業スキルを活用する 日本語教師養成講座



今まで培ってきた自分の職業スキル(技能)を、日本語教育という場に活用する方法を学ぶ入門講座です。

講義ばかりでなく、ディスカッションやワークショップなどを通じて、より生き活きた授業の出来る日本語教師養成を目指します。

■講師 北村弘明(聖徳大学教授) 山岡洋(桜美林大学教授) 立川和美(流通経済大学准教授)

■説明会(オリエンテーション) 6月22日 13時30分～16時30分

■研修期間 6月22日～8月1日 全10回 1回2～3時間

■授業時間帯 13時30分～16時30分 (詳細は、募集要項のスケジュール表をご覧ください)

■場所 聖徳大学 10号館(千葉県松戸市) 松戸駅より徒歩1分

■研修内容

「日本語教育への職業スキル活用法と指導上の留意点について」「日本語教育と日本語の知識／文法・語彙・文字表記・音声・会話教育・教授法」「一般外国語教授法理論の種類とその特色」「日本語教室の実際と教師に求められる指導技能」「言語習得理論と第二言語学習をめぐって」「ディスカッション」「有用なスキルの抽出と応用法について」「ワークショップ」「スキル活用の模索と留意点について」ほか

※全10回のうち、8回以上の出席があった方には、本研修講座の参加証をお渡しします。

■募集人員 25名(先着順。書類選考をおこなう場合もあります)

■応募資格 学校教員、インストラクターなど、指導的職業を経験した方を歓迎します。また日本語教育に関心があり、研鑽の熱意のある方なら特に資格を問いません。

■参加費 無料(初回に配布物印刷費のみ実費で3,000円いただきます)

■応募方法 別紙「募集要項」の要領にて、申込用紙に必要事項を記入の上、お申し込みください。

■問い合わせ先 聖徳大学 知財戦略課 TEL 047(365)1111(代)



平成 21 年度 文化庁日本語教育委託事業
聖徳大学 言語文化研究所 主催

地域の日本語教育を指導・助言する 上級教師養成講座

地域の日本語教育活動の現場で
日常的に、随時、適切な指導・助
言を施すことの出来る上級教師
の育成をはかる講座です。

幅広い技能、理論的な方法論を身
に付け、知識面においては、「日
本語教育能力検定試験」合格水準
を目指します。



- 講師 北村弘明(聖徳大学教授) 立川和美(流通経済大学准教授) 加藤あさぎ(麗澤大学講師) ほか
- 研修期間 8月29日～10月10日 全8回 1回3時間
- 授業時間帯 13時30分～16時30分 (詳細は、募集要項のスケジュール表をご覧ください)
- 場所 聖徳大学 10号館 (千葉県松戸市) 松戸駅より徒歩1分
- オリエンテーション 8月29日 13時30分～16時30分
- 研修内容
「日本語教師に求められる基礎能力」「日本語の文字・表記と中級読解をめぐる教授法」「日本事情と異文化コミュニケーション」「日本語文法と日本語教育」「品詞論と構文論の基礎理論」「日本語の音声・音韻と聴解能力の養成法」「日本語の語彙・意味と日本語の歴史の要点」「対照言語学・社会言語学の基礎理論と語学学習への応用」「日本語教育能力検定の解析」ほか
- 募集人員 25名 (先着順。書類選考をおこなう場合もあります)
- 応募資格 日本語教育に関心があり、研鑽の熱意のある方なら特に資格を問いませんが、前提となる基礎的な日本語教育の知識がある方に限ります。
- 参加費 無料 (配布物印刷費のみ実費で3,000円を徴収します)
- 応募方法 別紙「募集要項」の要領にて、申込用紙に必要事項を記入の上、お申し込みください。
- 問い合わせ先 聖徳大学 知財戦略課 Tel 047(365)1111(代)

(7) 研修会場

聖徳大学 10 号館 5F および 12F 教室

(8) 使用した教材・リソース

『みんなの日本語 I・II』（スリーネットワーク）

(9) 講座内容

A 職業スキルを活用する日本語教師養成講座

日 時	講座名／学習内容	講師	受講者数
6 月 22 日	日本語教育の概要と現状	聖徳大学教授 北村 弘明	30 人
6 月 27 日	日本語教育への職業スキル活用法と 指導上の留意点について	聖徳大学教授 北村 弘明	33 人
6 月 29 日	日本語教育と日本語の知識(1) 文型・語彙・文字表記	流通経済大学准教授 立川 和美	33 人
7 月 6 日	日本語教育と日本語の知識(2) 音声・会話教育・教授法	流通経済大学准教授 立川 和美	31 人
7 月 11 日	(ディスカッション) 有用なスキルの抽出と応用法	聖徳大学教授 北村 弘明	27 人
7 月 18 日	(ワークショップ) スキル活用の模索と留意点	聖徳大学教授 北村 弘明	27 人
7 月 24 日	一般外国語教授法理論の 種類とその特色について	桜美林大学教授 山岡 洋	28 人
7 月 25 日	日本語教室の実際と 教師に求められる指導技能	流通経済大学准教授 立川 和美	28 人
7 月 28 日	言語習得理論と 第二言語学習をめぐる	桜美林大学教授 山岡 洋	24 人
8 月 1 日	日本語教育とスキル活用ということ	聖徳大学教授 北村 弘明	28 人

B 地域の日本語教育を指導・助言する上級教師養成講座

日 時	講座名／学習内容	講師	受講者数
8 月 29 日	日本語教師に求められる基礎能力	聖徳大学教授 北村 弘明	22 人
9 月 5 日	日本語の文字・表記と 中級読解をめぐる教授法	流通経済大学准教授 立川 和美	21 人
9 月 12 日	日本事情と 異文化コミュニケーション	流通経済大学准教授 立川 和美	22 人
9 月 19 日	日本語文法と日本語教育 品詞論と構文論の基礎理論	聖徳大学教授 北村 弘明	24 人

9月26日	日本語の音声・音韻と 聴解能力の養成法	麗澤大学講師 加藤 あさぎ	19人
10月3日	日本語の語彙・意味と 日本語の歴史の要点	麗澤大学講師 加藤 あさぎ	18人
10月5日	対照言語学・社会言語学の 基礎理論と語学学習への応用	聖徳大学教授 北村 弘明	23人
10月10日	(ワークショップ) 日本語教育能力検定の解析を中心に	聖徳大学教授 北村 弘明	23人

(10) 講座の評価

受講生に対するアンケート

A 職業スキルを活用する日本語教師養成講座

a. アンケートの体裁



SEITOKU

文化庁日本語教育委託事業

聖徳大学言語文化研究所 職業スキルを活用する日本語教師養成講座

全講座を終わってのアンケート

※該当個所を○で囲んでください。また理由等もお書きください。

1. お住まいは？

(松戸市・柏市・我孫子市・船橋市・鎌ヶ谷市・流山市・野田市・千葉市・その他)

2. この講座を何でお知りになりましたか？

(自治体広報・ポスター・チラシ・インターネット・知人から・その他)

3. ご年齢は？

(～20代・30代・40代・50代・60代・70代・80～代)

4. 現在、何らかの日本語教育活動に参加していますか？

(している・していない)

5. 本講座の全体の印象

イ 大変満足

ロ 満足

ハ 普通

ニ やや不満

ホ 不満(理由：

)

6. 講義内容

- イ 大変わかりやすかった
- ロ わかりやすかった
- ハ ふつう
- ニ 少しわかりにくかった
- ホ わかりにくかった(理由：)

7. 講座科目

- イ どの科目も興味を持てた
- ロ だいたい科目に興味を持てた
- ハ 半分くらいの科目に興味を持てた
- ニ 少しだけ興味を持てた
- ホ ほとんど興味を持てなかった(理由：)

8. 教室の状態・設備

- イ 大変満足
- ロ 満足
- ハ 普通
- ニ やや不満
- ホ 不満(理由：)

9. 授業の時間帯

- イ 大変満足
- ロ 満足
- ハ 普通
- ニ やや不満
- ホ 不満(理由：)

10. 今後の日本語教育活動への有益性

- イ 今後、大変役にたつと思う
- ロ 今後、役にたつと思う
- ハ 普通
- ニ 今後、あまり役にたつと思わない
- ホ 今後、ほとんど役にたつと思わない(理由：)

11. ディスカッションに関して (参加・不参加)

- イ 大変満足
- ロ 満足
- ハ 普通
- ニ やや不満
- ホ 不満(理由：)

12. ワークショップに関して (参加・不参加)

- イ 大変満足
- ロ 満足
- ハ 普通
- ニ やや不満
- ホ 不満(理由：)

13. この講座に関する感想をどんなことでもお書き下さい

14. この講座を受講した成果をどんなことに役立てたいと思いますか

15. 今後、開講を希望する講座がありましたらお書きください

b. アンケート結果

職業スキルを活用する日本語教師養成講座 全講座を終わってのアンケート 28名

住まい	松戸市	船橋市	柏市	我孫子市	野田市	千葉市	その他
1	8	8	4	2	2	2	2

情報源	自治体広報	ポスターと知人から	チラシと知人から	チラシ	インターネット	知人から	その他
2	3	1	1	1	1	11	10

年齢	20代	50代	60代	70代
3	2	5	19	2

日本語教育活動に参加	している	していない	していた
4	23	4	1

全体の印象	大変満足	満足	普通	やや満足	不満	回答なし
5	6	17	3	1		1

やや不満の理由: もっと詳しい話、掘り下げた内容が聞きたいと思う内に時間が終わってしまったこと。

講座内容	大変わかりやすかった	わかりやすかった	ふつう	少しわかりにくかった	わかりにくかった	回答なし
6	7	18	2	1		

講座科目	どの科目も興味を持てた	だいたい科目に興味を持てた	半分くらいの科目に興味を持てた	少しだけ興味を持てた	ほとんど興味を持てなかった	回答なし
7	15	12	1			

教室の状態	大変満足	満足	普通	やや不満	不満	回答なし
8	11	15	1	1		

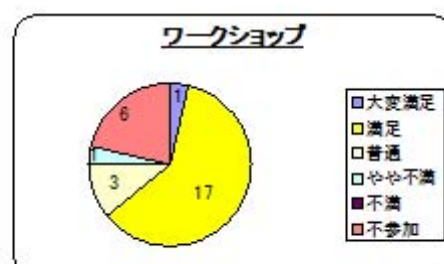
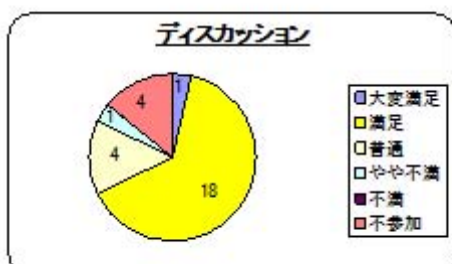
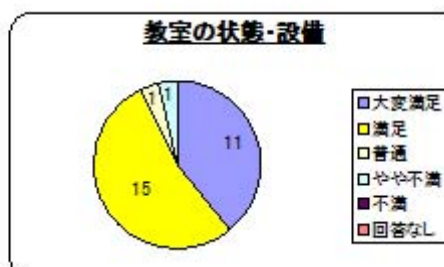
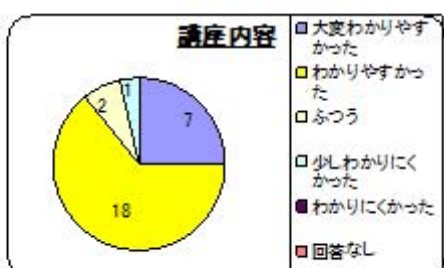
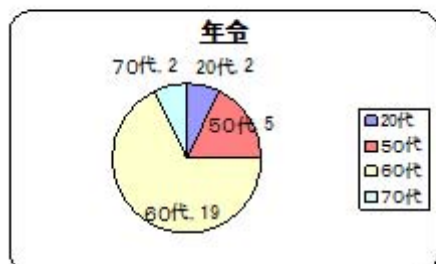
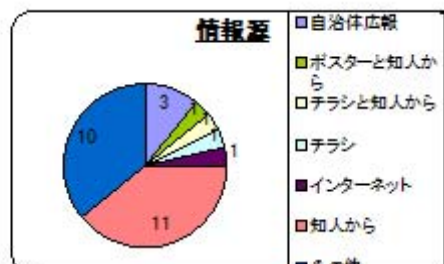
やや不満の理由: 冷房が効き過ぎ、集中できなかった。

時間帯	大変満足	満足	普通	やや不満	不満	回答なし
9	6	18	2			2

有益性	今後、大変役にたつと思う	今後、役にたつと思う	普通	今後、あまり役にたつとは思わない	今後ほとんど役にたつとは思わない	回答なし
10	9	16	1			2

ディスカッション	大変満足	満足	普通	やや不満	不満	不参加
11	1	18	4	1		4

ワークショップ	大変満足	満足	普通	やや不満	不満	不参加
12	1	17	3	1		6



c. アンケート項目

市	年齢	この講座に関する感想をどんなことでもお書きください	この講座を受講した成果をどんなことに役立てたいと思いますか	今後、開講を希望する講座がありましたらお書きください
松戸	20 代	語学に関する新しい知識を学んだが、受講者に発話の機会が少なかった。	就職活動のメリットとして役立てたい。	
松戸	50 代	経験豊富な先生方に会えてお話できた事で、それぞれの意見から多く学べた。	文法を説明する事に役立つと思う。	聴講できる講座があったら。
松戸	50 代	全くの初心者だったが、日本語教師として、現場活動をしている方々の中で（内容的に追いついていけない）難しい所もあったが、どの回も、先生方の熱心でユーモアあふれる授業で、一生懸命参加することができた。	上級も参加させて頂き、来年度4月からの松戸市国際交流協会主催の養成講座へ向けて、少しずつ勉強していきたいと思っている。日本語教育検定試験へ向けても勉強したいと思う。	来年度も、中級、実践編をお願いしたいと思う。
松戸	60 代	今迄の職業スキルからどんなスキルが会話能力の養成に役立てられるか、教えるのに必要な最小理論はどんなものか、など、ディスカッション、ワークショップ等を入れて受講者に気づかせるのに十分な企画だった。	・勉強していくうちに意識が少しずつ変わっていくのを感じる。例えば、意味を教えるのではなく場面の中で使い方を教え、学習者が使えるようにしたい。 ・言葉は人の言っていることをしっかり聞いて、それに答えるコミュニケーションであること。それをいつも基本にもって教えられる場面で考えていきたいと思う。	
松戸	60 代		外国人に日本語を教える時、役立つと思う。	
松戸	60 代	・ディスカッションとワークショップは初体験だったので、参加の仕方が少し難しかった。 ・どの先生の講座もとても熱心で有意義な話を伺うことができて嬉しか	頭に入った知識がいつまでも留まってほしいが自信がないので、少しでも授業に役立つものは読み返して勉強したいと思う。	なぜ学習者が間違えたかを分析できること。

		った。 ・運営委員の方も若い方がキビキビととても好感がもてた。 ・模擬授業も参考になり、よかった。		
松戸	60代	スキル活用について、色々考える事ができた。ワークショップを初めて経験したが、今一つその良さがわからなかった。	語学の教授法……使い方を教えることが大事。コミュニケーション能力を付けさせたい。	
松戸	60代	ボランティアで子どもに教えていて（日本語+教科）マンネリ化、子どもに力をつけているのか……と悩んでいて刺激を受けたくて参加した。実践上の個々の悩みが解決される講座ではなかったが、考え方というか、日本語を教える上での留意すること、何が大切か等について、勉強になった。良い知的刺激を受けた。		子ども（小・中・高）にどう教えるか（日本語と合わせて教科も）をそういう実践を積んでいる方の講座を是非お願いしたい。
柏	50代	有意義な講座だった。もっと勉強しなくてはならないと感じた。	今後教える立場（仕事として）になった時。	更に中・上級へ。
柏	60代	教師用指導書に書いてないこと。例えば、先生のわかりやすい説明など大変面白いと思った。いつもながら先生たちのご講義は素晴らしい。	学習者にとって役立つ日本語を教えようと努力する。	実践的な講座。
柏	60代	教師としてのスキルという視点から体系だてて見る事ができた。ワークショップでは受講生の方々と直接話して他の現場を知ることができた。	ボランティア講座として授業の準備や授業の時に役立てたい。	
柏	60代	最初「職業スキルを活用する」ということが少し気にかかったが、あまりそのことにとらわれない楽しい講座だった。講義の内容も面白い上に非常に判りやすく、私たちにとってとても有意義な講座だったが、10回という回数は少々物足りない気がした。	私が現在やっているボランティアとしての日本語指導に何らかの形で役立てたいと思っている。講義の内容もさることながら、グループでのディスカッション及びワークショップでいろいろな体験を持つ方の話を聞いたことが非常に参考になった。	日本語教師養成に関する講座を今後も引き続き開いてくれることを切に願う。
我孫子	60代	広範囲にいろいろなことを教えて頂き、視野が広がった思いで、受講し	今、実際に教えているので、この講座は折にふれ思	すがる思いで、また機会があったら

		て大変勉強になった。	い出され、役立つもの思っている。	受講したい。
我孫子	70代	毎回この講座の運営委員、言語文化研究所、特別研究員の方々のお世話に感謝している。レポートのまとめ、ディスカッション、ワークショップの下準備大変な事だと思う。		
船橋	50代	とても楽しく勉強させていただき、とても感謝している。聖徳大学の皆様、松戸のボランティアの皆様に変なお世話になり、ありがたかった。是非また先生方の講義を聴きたいと願っている。	これからのボランティア活動（公民館と中学校の日本語教室）。	日本語、国語文法に関する講座。
船橋	50代	教えることに直接かかわることではないが、ふだん「？」と思うことについて、考えることができた。	教える内容のベースを自分自身で理論的にもっとつめて、授業にのぞみたい。	発音に関すること。心理学に関すること。
船橋	60代	「教え方の手引き」の説明で今一つピンとこなかったことが、明確な文法上の裏付けのあることが理解できた。	表面の飾りだけでなく、どんどん知識の引き出しを増やし、自身の日本語指導のスキルアップを目指したいと思っている。	日本語指導者に必要な日本語文法の講座を希望。
船橋	60代	初級教授法に関する講義と最終講座が特に印象に残った。		ワークショップなどの時間で“学習者”の経験談を聞かせてほしい。
船橋	60代		この講座の成果を、地元の「日本語教室」ボランティア活動の場で活かしていきたい。	
船橋	60代	初級とは言いながら、かなり難しい内容だった。このような知識がないと日本語は教えられないのかと思った。	自分のわからないこと、知らないことを自覚し学習してみようと思う。	専門的な用語について知る機会があればと思う。
船橋	60代	とても有意義だった。	現在中級を指導している。指導能力の足りなさを痛感していた。この講座の結果を役立てたいと思う。	希望する。
野田	60代	言語習得の講義が大変興味深かつ	今後のボランティア活動	

		た。先生方の講義も楽しかった。	に活かしたいと思う。	
野田	60代	このような講座は初めてだったので、とても目新しく興味深かった。	さらに進んだ講座に出てみたいという気持ちをおさえ難い。	文法や音声等についての講座。
千葉	60代	一人ではなかなか進まなかった教育検定の勉強だったが、講座を聞いているうちにやる気が出てきた。また未知のことや言葉も知識として入ったように思う。大学の講座を聞くと、日本語の世界が広がっていき、楽しくなる。ありがとうございました。	日本語教育検定を受験し、さらに教授理論のレベルアップ、教え方のレベルアップをはかりたいと思う。	
その他	60代	思いがけなくこの講座に参加でき勉強になった。楽しい時間だった。	ボランティアグループの人達と勉強会の場で使っていきたいと思う。	
その他	60代	各先生方の特色が表れていて楽しめた。	無意識に話している母語をきちんと説明できるような準備をしていきたい。	

d 毎授業に課したレポートの体裁

平成 21 年度 文化庁日本語教育委託事業



職業スキルを活用する日本語教師養成講座
(聖徳大学言語文化研究所主催)
レポート用紙

平成 21 年 ____ 月 ____ 日

氏名 _____

授業内容 _____ 担当講師名 _____ 先生

【授業中、特に印象に残った点】

【質問・要望事項】

e レポートの分析

【特に印象に残った点】の項目に記されたもの(各授業別)

「日本語教育の概要と現状」で特に印象に残った点

- ・職業スキルとキャリアが同じように使われている印象を受けた。
- ・さまざまなスキルを有意義なスキルだと認めてくれてありがたかった。
- ・文の「意味／理解」ができたというだけでなく、実際にその文の運用力をどれだけつけられるか、いつも難しいと感じている。
- ・心して五感で理解してもらえるよう、いつも初心を忘れず教えたいと思う。
- ・指導に関係する職業の経験がない自分でも、今までの職業経験の中から何か日本語教育に活かせるものを見つけられるような気持ちになったこと。
- ・教えることではなくて、気づかせる、感づかせることが大切である。
- ・情報量が不足すると誤解されることがある。
- ・文型の意味を教えるのではなく、使い方を教えることが大切である。
- ・サバイバル日本語を積み重ねて教えられないか。
- ・「やさしいものを難しく」「難しいものをやさしく」と言う教師は演出家。
- ・教える前に学ばなければならないことが多すぎる。自分にとって「学びながら教える」という方法を取らざるを得ない（年齢的に）ことを痛感。
- ・「日本語は話せても教えられない」＝日本語の知識がない。
- ・「反面」教師の意識を授業の技能に活かしたい。
- ・教師⇄学習者 異性の組み合わせの方がうまくいく（年齢ではない）。
- ・「気づかせる」「感づかせる」は「意味の気づき」ではなく「使い方」や「応用力」の養成である。
- ・0レベルの学習者に対する「気づかせ方」「感づかせ方」の工夫が必要である。
- ・「サバイバル日本語」の必要性。
- ・日本語指導が、ともすれば「お勉強」や「教養」主義に陥りやすいことなど、実際に気づかず教えている現実には反省するばかりだ。
- ・中国人に日本語を教える時に今日の話を心に留めて臨みたいと思う。
- ・説明するのではなく、学習者自身に気づかせることが大切。
- ・マン・ツー・マンの時はいいのだが、人数が5人以上いると指導が難しいと思う。
- ・文型の意味だけでなく、使い方がわかる授業を心がけなければならないと感じた。
- ・受講者をひきつける楽しい授業だった。
- ・日本人相手の教員スキルをそのまま活用する先生に対し、このままだと日本語教師としては失敗すると断言されたこと。失敗もありうるのか……。聞いていてすこしこの文言にびっくりした。
- ・会話のときのジェスチャーが大切。
- ・日本語の指導について失敗例をたくさん出していただいたが、それは真にわたしがやっていることだ。悩みの多い日々だ。やり始めたばかりだが。
- ・説明的手法は通用しない。気づかせる、感づかせることが大事。
- ・単なる意味の指導に終わると教養は身につくが、実用ノウハウとして役に立たないものになる。
- ・初級における気づきの授業が意味の気づきのみで終わっていて、使い方の指導にまで至っていないこと。それと導入で教えていくことの大切さを再度しっかり教えていただいた。
- ・直接教授法が必要な理由も明解となった。

- ・文型の使い方を気づかせる時、いかに有効に簡潔に教えるか、もう一度よく考えたい。
- ・気づかせる・感づかせるのは意味だけじゃなく「使い方」にもあてはまる、ということ。
- ・会話能力を育てることが大切。
- ・初級の日本語の2つのポイント（説明して教えない・使い方に気づせる）は、今更ながら目から鱗という思いを新たにした。しかし、具体的にどう実践するか、で自己嫌悪に陥ってしまう。
- ・これからの講座の方向性がわかり、自分の要求に合っているようで楽しみになった。
- ・ダイレクトメソッド（直説教授法）の重要さが理解できた。
- ・実践力を身につけるためには、コンパクトでインパクトのある示唆をすることが大切。
- ・人を惹きつけるエンターティナーであることも教師の重要な条件だということがよくわかった。
- ・サバイバル日本語を教えるべき。システム化できると充実感があふれて、学ぶことが楽しくなると思った。
- ・英語を媒介語にして（ドイツ人、スイス人、イタリア人、中国人 etc.）と話し合うことが多かったが、近所の中国出身の奥さんとは日本語と漢字を交ぜてするのが常。教える時に単語をたくさん学ぶことは習得への近道なのか。
- ・日本語教師検定試験は難しい。合格率が18～19%となっている。目標点で合格が決まるのではないようだ。
- ・日本語学習者が年々増えているので、日本語教師の需要も増えている。
- ・気づかせるための適切なヒントが必要。何が適切な指導になるかを模索していく必要がある。
- ・ことばを知識として教えるのではなくて、実践力をつけさせる。使い方をしっかり身につけさせることまでしなくてはいけない。
- ・職業スキルの活かし方と、コミュニケーションのとり方との研究が必要。
- ・母語によって説明するのではない直説教授法の重要さを再確認した。
- ・日本語の音節は、一字一拍なので、教えやすいと思った。
- ・「わたし」と「あなた」という単語は、互いの立場から言い合うことで意味が明確になることがわかった。
- ・日本語は世界の多くの言語の中では難しい方ではないと聞くが、音声面が単純な構造になっていることがわかった。
- ・国内で日本語教師が不足しているそう。
- ・日本語教師の質を高めなければならない。
- ・自分のスキルを単純にふりまわすだけでは失敗する。
- ・ことばの意味とは使い方のことである（ヴィットゲンシュタイン）。
- ・直説法は母語を思い出させないで音を聞いただけでダイレクトに意味がわかることを目指している。
- ・楽しく学ばせられる演出や教授法なども、多用できる工夫が必要。
- ・学習者の要求を聞き、できるだけニーズに応えられるように努める先生の姿勢が大切だと強く感じた。
- ・海千山千の要領がいいだけの日本語教師とならないように自戒していきたい。
- ・初めて日本語教室の教壇に立った時の気持ちに帰らねば、と改めて認識させられた。
- ・自分の職業スキルが日本語教育としては逆効果としての作用をもたらすこともある、という話。注意しなくてはならないと感じた。
- ・導入部分で文型の使い方を学習者に感づかせ、気づかせなければならない。
- ・自分の経験したことをどう活かすかを発見することも目標である。

- ・ どのような時に使うかを教えなければ会話能力が身に付かない。
- ・ 以前、日本人相手の教師をしていた人が、その職業スキルをそのまま使って外国人に教えた場合、失敗して行き詰まることもあるということ。
- ・ 「あまりことばを使わないで教える」くらいがちょうどいい、と思っておくこと。
- ・ インストラクターには効果的な話術が必要（注意を引きつけ、なおかつ客に嫌な思いをさせない）。
- ・ 要所、要所に応じて具体的なイメージを織り込む教え方が効果的。
- ・ おもしろくない語学をいかにおもしろく感じさせるかが、日本語教師の仕事（演技力が問われる）。逆に甘く見ないようにという注意をすることも必要。
- ・ 今までに経験してきた仕事が、何らかの形で役に立つ技能に転用できることが多い。
- ・ 日本人に教える場合と外国人に教える場合とでは、方法論が違う。
- ・ 今、自分の持っている技能が日本語教育にも発揮できることを期待したい（自分を再発見する機会になればいいと思っている）。

「日本語教育への職業スキル活用法と指導上の留意点について」で特に印象に残った点

- ・ 文型の「練習（口慣らし）」よりも「使い方を教える重要性」が強調されていた。
- ・ コミュニケーションのスキルは、民間企業の「管理職スキル」と類似している。
- ・ 自分の殻が破れるのか？→世界が広がるかも……。
- ・ 日本語を教えることがコミュニケーション能力に大きく関わるとは、驚きだ。
- ・ 使える日本語を教えることが大切だということ。
- ・ 勇気を持ち、慎重に前進しようと思った。
- ・ 私の「日本語能力、コミュニケーション能力」は大丈夫かと、不安になった。
- ・ 私の「聴く」スキルはどの程度だろうか？
- ・ 私の授業は良い授業だろうか？ もう一度反省してみたい。
- ・ 例文を提示する時、なぜそのような文型を使用するのか、いつも留意する必要があること。
- ・ 相手の反応を常に意識しながら進めることが肝要である。
- ・ 相手に心を開いていることが大切だということ。
- ・ 学習者の理解度をいつも確認すること。
- ・ 「日本語教師に向いている性格・才能」についての話（このような内容の話を聞いたのは初めて）。
- ・ 自分を見直す（分析する）機会を持つことができたこと。
- ・ 言う甲斐のある、自然な文を教えてあげること。そのために日頃から役立つ例文を集めておくこと。
- ・ 心の窓を開き、笑顔で学習者に対すること。
- ・ 学習者が教わりたいことを教えること。
- ・ 学習者の反応に注意すること。併せて確認すること。
- ・ 日常的に使う可能性のある文や場面、状況を意識して練習を繰り返すことが大事→自分も気づくことがある。
- ・ 教科書の文型をもっと多方面から捉える努力をしなければ……。
- ・ 自分が伝えたい（教えたい）ことを、相手に気づかせる方法を工夫すること。
- ・ 「話す」ことで、何を相手から受信できるか。「聴く」ことで、何を相手に発信できるか。「交流」は話すことだけでなく、「聴く」ことも重要なファクターである。
- ・ 第一言語と第二言語との違い（国語教育と日本語教育）。

- ・(教案例から)「それがどうした?」と思われるセリフが多い。発話視点の重要性。
- ・実用性の乏しい文型練習ではいけないこと: コミュニケーションとして考える視点が必要 ⇒ 「交流」
- ・鏡像効果とコミュニケーション。
- ・「心の窓」の開け具合。自分自身の客観視。
- ・「問いかけ」(わかりましたか?) の意味と繰り返しの必要性。
- ・「みんなの日本語」19 課 (〜たことがあります) の導入の難しさ。
- ・今までやってきた導入方法の誤りを指摘され、考えさせられた講義だった。
- ・「勉強が好き+教えることが好き」が日本語教師の適性の第一要件である。
- ・母語である日本語を、外国語のように客観視できること。そして「学習者の視点」を忘れないためにも、外国人に関心を持てるというのは大切な日本語教師の適性である。
- ・固定された文型練習だけでなく、本当の交流ができるようにするためのスキルが大切である(相手が言いたいことを表現できる練習にすること)。
- ・自分が教えたことを教えるのではなく、相手が学びたいことを教える。
- ・相手が外国人の場合、受信するのがとても難しいことがあり、ベテランの先生方のように忍耐強く聴けるようになるか、自分でも疑問に思うことがある。でも、ことばのキャッチボールができるように努力していかなければと思う。
- ・教師の指導スキルが、実例(効果的文型の作成)でよくわかった(身につまされた)。
- ・コミュニケーション能力を向上させるためには、自分の能力の長短をうまく活かすべきであることをあらためて強く感じた。
- ・文型練習は、あくまでもコミュニケーションのための一つのツールでしかない。
- ・日本語教師は「外国人が伝えたい状況」「話したい状況」を作ることが大切である。
- ・日本語教育と国語教育とは異なるものである。
- ・相手の対応に配慮し、適切に対応することでコミュニケーションをはかることが大切。
- ・教師の指導スキル、コミュニケーション能力が一番大切である。しかし“コミュニケーション”それ自体は目標ではなく、意思疎通の手段であることに留意すべき。
- ・「聴く」という事の大切さ、話す側は聞き手の反応を見ること。
- ・日本語教師に向いている性格、才能がいくつか挙げられたが「私の努力の範囲内かな?」と思え、頑張れそうだ。
- ・日本語の指導で「教案例の内容」について指摘されたことに大きなショックを受けた。教えることの難しさ、奥深さ、安易に教える側に立つ危うさ、など。じっくり内容を学ばなければと思った。「注意深く始めなさい」を心にとどめて。
- ・コミュニケーションとは、何かの目的をなす為の技能、このことばの意味がいかに大きいか感じた。コミュニケーションとは、単に今まではしゃべり合っていればコミュニケーションと思っていた。聞くことは、単に耳を傾けることではなく、なぜ相手がそのことばを発しているか、を心に留めて聞くことだ、ということのを再認識した。上記 2 点がしっかり頭に入っていれば、日本語を教える時、なぜその質問をするのか、理由と反応も含めて導入していけるようになると思った。
- ・今日はたくさん教えていただいた。“教えたことを教えるのではなく、教わりたいことを教える”“コミュニケーションの一環として文型を教える”“めげない繰り返し”“スマイル”等等。
- ・今から人との会話を(夫との会話も含め)本当のコミュニケーションとなるようにしていきたいと思った。

- ・ある文型を非日常的例文として挙げるのではなく、日常会話の中でどういう場面で使うかをよく考え、実用性のある例文として取り上げることが大切（導入の場面をいろいろ考え、これだ！という例を思いつくまでが大変。日本語教師になりたてのため、最近常に頭の中で例文を考えている自分がいる）。
- ・教案例での講義、大変興味深く、思い当ることが多くあった。文型を教えるための例文など、たくさん語彙を使った方がよいと思い、ただ機械的に進めていた。自分も教えることが少しもおもしろくなかった。相手はもっとおもしろくなかっただろう。
- ・日本語教師に必要なセンス（何が本質かをつかむ能力）は、教えることすべてに当てはまると思った。
- ・日本語教師にとって、単純な繰り返しの大切さをひしひしと先生から感じた。リズムカルにいかにあきらめさせずに指導できるか。
- ・「教師4：学習者6」の発言がBestな授業時間の配分である。
- ・英語教育の学習指導要領が変わって「会話」についての指導事項が追加された。
- ・外国人に日本語を教えるのと、日本人の子どもに日本語を教えるのとは、全く違うので別のものと考えていく（次元が違う）。
- ・「過去」と「経験」の違いをわからせる教え方は難しい（教える視点をもつことが大切）。ある表現を使うことで何を教えたのか、はっきり認識して教える。
- ・日本語教師に一番必要なスキルはコミュニケーション能力である。
- ・自分のスキルが十分でなくても、自分のスキルがどうなのかを意識していることが大切。
- ・ことばで伝えられなくても、身振りや表情など、態度で相手に伝えていることがあるので、どう相手が反応しているかを読み取る必要がある。そして確認する。
- ・日本語教師のスリム化を図っていくことも必要（要求が過大になりすぎているきらいがある）。
- ・相手の話を聴き、適切に反応し、コミュニケーションをとることも大切。
- ・第19課の「～たり～たりします」の文型で、よくない導入例と練習方法が紹介された。自分が同じことをしていたことに思いあたった。
- ・国語の授業は日本語のわからない外国人児童に対してはムダであることが多い。
- ・文型の使い方：相手に何が伝わるか、伝わったか、この文型を使う理由、を念頭におくこと。
- ・勉強好きと教え好きは違う。
- ・「～たり～たりします」「～たことがありますか」「～しましたか」←なぜこのような文型を使うか、発話目的をよく考えること。
- ・人との交流によって会話力を育む。
- ・学習者に多くを話させる必要がある。
- ・学ぶことが好き＝教えることが上手、ではない。自分の価値観を学習者に押し付けないこと。
- ・自分の文化とは違う異文化を楽しむ努力が必要。
- ・我々の日本語教育はドリルである。「見せて」「やらせて」「直してあげる」である。
- ・コミュニケーションは目的ではない。何かを達成するための手段である。
- ・国語教育と日本語教育の違いを明確にして、日本語教育に当たらねばならない。
- ・「ます形：自分の意志性が入る」「辞書形：一般性が強い」←先生のお話で、はじめて気づいた。
- ・日本語教師養成に関する先生の教え方、主張（教員養成のスリム化）にとっても興味がわいた。心強い限りだ。
- ・「～ました」「～ことがあります」の使い方の違い。
- ・日常でよく使う、言い甲斐のある例文を示すことが大切。

- ・この文型を利用してどういうコミュニケーションができるのか、よく吟味する。
- ・何のためにその文型を使うのか、言ったことで何ができるようになるのか、を考える。「～しましたか」「～したことがありますか」の違い。なぜその文型を使うのかを考えることが大切。
- ・自分の日本語能力やコミュニケーション能力について意識しているか。
- ・人の話を聞けない、自分の価値観で話をする ⇒ 相手が見えない。だから、人の話を聞くことが大切。
- ・今教えている文型を使うことによって相手に何が伝わったかを考える。
- ・笑顔は心の扉をひらく一番のコミュニケーション手段である。
- ・日本語能力を有する外国人を、日本語ボランティア教師として養成することに興味がある。しかしその外国人が教師としての適性を有するかどうか、見極めることは難しいと思った。
- ・例文の大切さ：文法的には誤っていなくても不自然な会話ではだめ。人とどう交流するかが大切なものだから、非日常的会話の練習をしても意味がない。
- ・教える日本語が、適切なコミュニケーション手段として使えるように留意し、役に立つ日本語指導をしていく。
- ・コミュニケーション能力の大切さがよくわかった。
- ・相手（学習者）の様子をよく確認しながら指導し、習得度を把握することが大切である（「聴く」事の大切さ）。

「日本語教育と日本語の知識（１）文型・語彙・文字表記」で特に印象に残った点

- ・異文化と「色のとらえ方」に関して、自身の体験と照らしておもしろく感じた。
- ・「ハ」の前は旧情報、「ガ」の前は新情報となること。
- ・「のだ（んだ）」の使い方、説明の仕方。
- ・「ね」「よ」（終助詞）のニュアンスの違い。
- ・日本語教師としても、日本語学習者としても全くの初心者なので、全ての話題が興味深かった。もっと詳しくお話を聞きたいと思った。
- ・非漢字圏の学習者は、漢字をマスターすることが大きいネックになっている。
- ・学習時における「主語」概念の有効性と、反面、日本語の中ではあまり主語を使っていないこと。
- ・終助詞の使い方を注意しないと相手に失礼になったりすることが起こること。
- ・形容詞になっている色は日本語として伝統的な基本色。
- ・文化が違くと物の見方が異なるということ。
- ・日本語の持つ意外な一面。例えば「～てみる」に使えない動詞があること。
- ・「モダリティ」という概念をはじめて知った。
- ・紫色とは“何色とも定義できない不思議な色”と理解した。
- ・板書が整理されていて見易かった。
- ・モダリティに関する各論について。その重要性を再確認し、教え方の難しさを感じた。
- ・終助詞について、「よ」を使いすぎる学習者にどのように指導すべきか迷っていた時なので、大変参考になった。
- ・言語の運用に関しては文化が違くと捉え方が違う。例えば色について、虹は日本は七色であるが国によっては六色、三色の場合もあるなど。
- ・「～のだ」はモダリティの一種で、その話し手がどんな気持ちを持っているかを示している。使われている状況、文脈が大事になってくる。ただ非常に難しく、学習者によっては注意すると非用と頻用

になる場合が極端に出てくるので注意を要するという事。

- ・日本語の特徴の一部を垣間見ることができ、とても楽しい授業だった。
- ・とても事例が具体的で、すぐ役立つ知識が多く、ありがたかった。
- ・「モダリティ」は、日本語学習者が早めに習得しなければならない学習項目の一つであるということ。
- ・ことばの誤用は「状況認知」と深く結びついているということ。
- ・用法を下手に教えると「非用」「頻用」になり易いということ。
- ・日本語指導とは言え、語法理論の切り口からの考察は興味深いものがあった。特に「モダリティ」論は今までとは違う見方であり、なるほどと思うことが多々あった。
- ・問題を解いたあとの答えをしっかりと示してほしいと思った。非常に細かい内容なので。
- ・自然に自由に使用している日本語を、改めて考えると、用法説明のできない点が多いことに気付いた。
- ・日本語のルールを意識するようにしたい。
- ・漢字習得は学習者にとって大変だと思った。
- ・「命題」「モダリティ」は初めて耳にしたことば。日本語を難なく使っていると思っていても、どうしてそうなっているのかを説明することの難しさ。今日は、お話を聞くだけで精一杯。家でもう一度、ノートを読み直したい。
- ・モダリティについての講義が新鮮かつ難解。日本人で日本語を話したり書いたりしていても日常はあまりにも無意識に使っているの、一つ一つ分析してみると、日本語は何と難しいものだと思った。
- ・初級学習者、および教師に必要な部分を手際よく教えていただいた。モダリティでいかに人の感情や状況の違いが表されるかが3つの例でよくわかった。正しく教えるのはとても難しい。
- ・「六書」について理解できていなかった。あとでもう一度調べてみたい。
- ・モダリティについて。話し手がどういった気持ちで言っているか、について学んだ。「～んですから」のことばに対し、何か変だと思っても、その理由をうまく説明することは大変難しい。日本語の持つ意味とモダリティをきちんと理解しているかが重要になってくると思った。
- ・日本語を改めて勉強したり、教えたりするという経験がないので、今日の授業で、現場、現実、現状の一端に触れたように思えた。文学部ではなかったので、日本語は大好きだが、ここまできちんと学ぶということはなく、日本語の難しさ、深さがよくわかった。
- ・漢字圏の学生とそうでない学生との印象の違いがおもしろかった。
- ・皆さんがいかに日本語を教える現場で経験をつまれているのか、質問からよくわかった。『はじめての一步』の私もがんばらなければ！
- ・日本語は文字の種類が多いことが、日本語を学ぶ外国人にとってはネックになっている。
- ・日常的に問題なく使っている日本語も改めて見ると、文法的に曖昧なところや考えたことがないようなことがあるので大変だと感じた。
- ・格助詞「は」「が」の使い方の違いは微妙である。使い分けられてもその違いを上手に説明できない。さまざまな文型のモダリティの違いをしっかりと認識して、日本語教育をしなければいけないと思った。
- ・モダリティの講義の時間がもっとほしい。
- ・いつもの事ながら文法の難しさを感じる。
- ・「なければならない」「のだ」など、モダリティに係わる文末表現の用法が改めてわかった。
- ・「いいんです」がよく使われているが、「いいです」との違いが少しわかった。
- ・実例を多く使って説明する事で理解し易い授業ができるということ。
- ・言語に関する文化圏の違いにも留意した点。

- ・文法に関する用語が多く学べた。
- ・言語の運用には文化が係わってくるということ。
- ・ヴォイス、テンス、アスペクトなどの概念について。
- ・「のだ」の用法がわかりやすかった。わかっているようではっきりと言いきれなかったところだった。とてもすっきりした。
- ・「PのだからQ」という文型の説明が興味深かった。
- ・普段何気なく使っていることばも吟味してみると非常に難しいということ。(のだ、よ、etc.…) →それをどう教えるかについてももう少し知りたい。

「日本語教育と日本語の知識（２）音声・会話教育・教授法」で特に印象に残った点

- ・音声学習では、拍意識の形成が大切だということ。
- ・相手のニーズに合わせた指導をすることが重要。
- ・指示語と接続詞は親しい関係にあること。
- ・指示語、ディスコースは心の動きにも影響される。
- ・初心者にとっては、前回同様大変興味深い内容である。
- ・時間をとって、もっと詳細に勉強したいが、年齢的にもう無理かもしれないという感じもした。
- ・今日の内容がよくわかった上で、日本語教育に取り組めたら、素晴らしいと思う。
- ・日本語の拍を、学習者に早い段階から身につけさせる必要性。
- ・オーディオリンガル・アプローチの反復練習の必要性。
- ・一番大切なのは、学習者のニーズを捉え、それに合わせること。
- ・談話の視点を考えながら、作文指導をする必要があるということ。
- ・日本語教育は、日本語の特性を理解し、考えながら行わなければならないという当たり前のことを再認識させられた。
- ・指示語の使い方における話し手と聞き手の領域の問題、心理的な距離の問題についての説明がおもしろかった。
- ・自然なことばのやり取りができるように指導するのは難しいことだと思った。
- ・談話の展開における固定的視点が日本語の一つの特徴であることを考えると難しい。
- ・指示語が心理的距離によって使い分けられていること。
- ・ミニマルペア、音声の発音ができているか調べる教授法が印象に残った。
- ・オーディオリンガル・アプローチは、形式重視で意味を軽視していると言われていること。
- ・指示語における眼前指示と文脈指示との違い。
- ・指示語は感動詞にも影響を与えていること。
- ・移動動詞、授受動詞は、視点によって使い分けがあること。
- ・移動動詞、授受表現の指導の難しさをあらためて確認させられた。
- ・教師の心構え次第で指導法が変わるという話。
- ・談話について、そこにどんな要素があり、どんな役目を果たしているのか、もう少し考えてみようと思った。
- ・談話についての「気に障る話し方」ではなく、「心地よい話し方」ということ。
- ・話し手の視点を考えるということ。
- ・動詞の制約について。

- ・日本語では、視点を自分にもってくるということ。
- ・文法的には間違いではない、発話の場所との関与性。
- ・おろそかになりやすい拍の重要性。
- ・アクセントの聞き取りの難しさについて。
- ・話し手の視点について、今日の講義のように考えて指導していなかったのも、とても参考になった。
- ・盛りだくさんの内容を、早いテンポで話すので、ノートを取るのが大変だったが、とてもためになり、実際にすぐに役立つことが多かったのも、とてもありがたかった。
- ・今までなんとなく感じていたことを、明確に説明してくれたのも、とても安心できた。
- ・日本語教育と国語教育における具体的な違いと事例がわかりやすかった。
- ・オーディオリンガル・アプローチの中に、コミュニケーションアプローチを効果的に取り込むのが、今後の私自身の課題の一つになると思った。
- ・教師の心構え。学習者にどんなニーズがあり、そのニーズを知った上でどんな指導が最良なのかを考える必要性。
- ・話し手の視点と動詞との関係が興味深かった。しかし実際に日本語として指導するのは難しそうである。
- ・日本語の音声は、音の単位としての発音が難しくなくても、拍、アクセント、プロミネンスなどいろいろな要素が入り混じり、学習者にとって漢字のみならず、困難なものである。
- ・NS に心地よいディスコースへと導くことは、たくさんの知識と経験、及び母国語への感性を磨かなくてはできないということ。
- ・「コ」「ソ」「ア」「ド」の指示語の持つ意味が、接続語などにも連動していることを考えたのは初めてである。
- ・受益と話者視点、方向と視点、なかなか難しく、自然な日本語の指導まで考えての教育は、自分ではできていない。
- ・それぞれの場面を考えると、いろいろな立場がたくさんあるので、整理してわかりやすく教えるということは、大変難しいことである。
- ・系統的に日本語教育の学習をしていないので、難しかったがとても新鮮だった。
- ・拍のことなど、教える側の技術がきちんとしていないと、学習者（自分の場合は外国人児童）を混乱させてしまうことがわかった。
- ・初級の外国人を教えているが、自分の日本語の力をつけなければと痛感した。
- ・日本語教授法が難しいということが、何となくわかってきたが、楽しく学習している。
- ・授業がとてもパワフルで、領いている間に3時間が終了した。
- ・日本語のアクセントについての話を聞き、普段は特に意識せず使っていたので、今回は改めてそれを考える機会になった。
- ・日本語を日本で学ぶと、話しことばが先行してしまい、書きことばに影響が出る。スタイルの違いを早めに指導していく必要があるということ。
- ・話し手の視点で動詞の使い方が違ってくることは、外国人にとってかなり難しい。またその指導も難しいと感じた。
- ・音声、アクセントが苦手である。それに関する授業をもっと受けてみたいと感じた。
- ・「相手を不快にさせない話し方」について。常に日本人的な心情を教えることは、難しいと思う。
- ・一部の外来語（カタカナ語）の意味がよく理解できなかった。

- ・音声学をもう少し深く知りたかった。
- ・内容が多い割には、淡々と授業を進めていたので、ある程度教師の経験がある人には理解しやすかったのだろうが、初めての人には理解しにくいと思う。もう少し焦点を絞ったらどうだろうか。
- ・「コ」「ソ」「ア」「ド」を使った歯医者の話など。必ずしもそうでない例に、改めて考えさせられた。納得のいく説明にホッとする。
- ・学習者にとって、「行く」「来る」の用法の難しさを改めて感じた。
- ・単音と音素との区別がまだよくわからない。
- ・作文の説明で、「内容のチェックも必要」とのことだが、文法、ことばの使い方が正しければ、個性があってもいいと思う。
- ・授受動詞の混同について。
- ・外国人のディスコースは、視点があちこち変わるので気をつけなければならいということ。
- ・日本語は状況を非常に重視する言語であるということ。
- ・作文指導という点でなるほどと思ったことは、学習者の言い方が日本文化に合わない場合、日本人にはわかりづらいと感じる、ということ。
- ・移動動詞と視点の説明が具体的でよかった。
- ・日本語が話せれば日本語を教えられる、という訳ではない。
- ・外国語としての日本語を教えるのが、日本語教師であるということ。
- ・日本語自体は外国人にとってそう難しいものではない。難しいのは日本語の拍意識である。「病院（４拍）」と「美容院（５拍）」との区別が必要。
- ・各項目の説明の後に、問題を解くようになっていて、とても理解しやすかった。
- ・日本語学習者にとって、理解しにくいところがよくわかり、どのように理解させるか多少わかったような気がした。
- ・日本に住む日本語学習者に初級のうちから話しことばと書きことばの違いを教えるべきだ。
- ・実際の距離と心理的距離。
- ・作文について、文法以外に文化の差ということにも留意する必要があること。
- ・コとソ、コとアの対立。組み合わせの表現はなるほどと思った。
- ・感動詞（こら、そら、どら）も、「こ・そ・あ」なのかと新発見だった。
- ・「文法的には間違いではないが、そうは言わない」という場合、学習者にわかってもらうのは大変だったが、今回の講義でポイントがわかった。
- ・談話における「視点」「方向性」の重要性。
- ・語彙と文の構造を説明するだけでは、十分なコミュニケーションは図れない。「このシャツはいいシャツです」は、自然な発話ではない。
- ・指示語の使い方。実際の距離と心理的な距離の違いによって、いつも同じ使い方になるとは限らない。
- ・文章と談話の中で、指示語は単なる距離だけではなく、心理的な距離も表すということ。
- ・日本語の談話の中で、視点の統一の講義が印象に残った。自分が外国語を学習した時に感じた疑問が本日解消した。

「有用なスキルの抽出と応用法」で特に印象に残った点

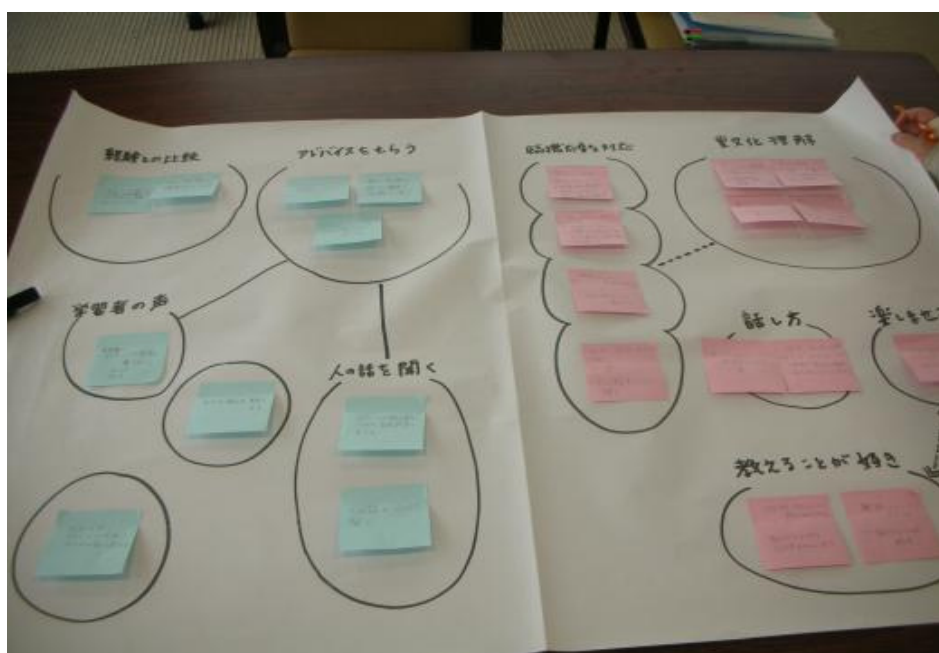
- ・スキルと一口に言っても、一般的な（広義のスキル）ものと、特殊な（狭義のスキル、パソコン技能など）ものとのギャップが印象的だった。

- ・司会者を中心に参加者から種々の見解が出ておもしろかった。
- ・各自が特技（スキル）を持っていてそれが日本語を教えることに生かせるということ。
- ・パソコンなどを使って一人一人に合った（ニーズに合わせた）資料を作ることができる。
- ・大きな声、正しい発音、発声が大切。
- ・グループのメンバーの経験の多様さよりも、その考え方にいろいろな違いがあること、またそれが教え方に影響を与えているのでは……と推測できたことがおもしろかった。
- ・聞く力が大事だということを再確認した。
- ・学習者に対していろいろな見方ができ、手だてを考えてあげることが大事。
- ・あたりまえだと思っているような経験でも、授業で活かせるのだとあらためて思った。
- ・笑顔を忘れないということ。
- ・絵を上手に描いてコミュニケーションをすることなども有効との意見あり。
- ・多様なイベントを行っているボランティアの例が興味深かった。年賀状作り、はんこ作り、浴衣の着付け教室など。
- ・スキルのとらえ方が違うと、細かい教授法に議論がいつてしまうことがあった。
- ・基本的なところは（言い方が違って）同じ認識を持っていた点。
- ・相手のニーズを読み取って相手に対応できる能力が必要。
- ・日本語の教材としてスーパーのカタログを用いる。
- ・年賀状を出すという指導をすることもある。
- ・ワークショップにある結論を求める。
- ・いろいろなことに興味を持っている人ばかりだった。
- ・日本の伝統文化を身につけておくことが大切だと感じた。
- ・簡単な楽器演奏が学習のきっかけになる場合もあり得る。音楽は世界共通である。
- ・パソコンを利用すると良い。
- ・ことばが通じなくてもコミュニケーションは大切。
- ・各人、話したいことがたくさんあるが（情報満載）、話がどうしても散漫になってしまう。
- ・ことばに関心があることが語学教師のスキルの一つ。
- ・学習者の母国語で話をさせることは、授業になじませるのに必要なことである。
- ・子供の心境がわかることが必要。
- ・相手の国民性を知ることが必要であるが、まず個人として理解することが必要。
- ・探究心を持つことが必要。
- ・授業中に「おやっ」と思ったことは帰ってから振り返り次回フォローをしているという話。
- ・絵が描けるというスキルはとてもうらやましいと思った。
- ・年賀状を年末の授業に取りいれるのは良いことだと思った。
- ・ことばを教える前に信頼関係を築く必要があるので笑顔は重要。相手が話しやすいようにいつも心がけている。
- ・初心者には絵やカードや現物などの教材がたくさん必要であり、日本語だけでなく英語や漢字を使った方が効果があるのではないか。
- ・「ハーフ」という呼称はデメリットとしても聞こえるが、「ダブル」はメリットとしてとらえられるということになるほどと思った。
- ・「異文化が好き・人間が好き」と言えるといいなと思った。

- ・「日本語を教える上で外国語は必要か」ということ。
- ・何事も興味関心の多い人達の話が聞けたこと。
- ・6人いれば6人の考え方が同じようでも、少しずつ違っている点がおもしろい。
- ・意識的にスキルについて話し合うことにより、教師に必要とされる能力や、自分のスキルにも気がついたこと。
- ・ディスカッションをした方々、皆それぞれの個性を持ち、本人が気付く以上にスキルがあるように思った。
- ・それぞれの主張、それぞれの背景を聞けただけでも参考になった。
- ・初対面の方ばかりなのではじめは心配したが、話しはじめると次から次へと発言が出て、とても楽しかった。
- ・問題意識や、悩みの問題も共感できた。
- ・司会者を含め7人のグループだったが、各々に“日本語を教える”ということにとっても真摯であり、励まされた。
- ・日本語教師として発音は必ず直してあげる。見過ごさないように、しかし相手のプライドを傷つけないことが大切。
- ・良いところを持ち上げてあげる。相手の人間性、特性を決めつけない。話題の豊富さや人生経験が役に立つ。
- ・向上心、意欲、研究心を失わないことが教師には大切だと改めて思った。
- ・教師が日本語の知識をしっかり持っている必要があること。
- ・学習者の目的に応じた日本語の指導が大切。
- ・臨機応変に対応する能力が指導者には必要であること。
- ・たくさんの人の話を聞くことができ、楽しくて勉強になった。
- ・自分が日本語教師に向いているか、いろいろな助言を出し合って参考にできたことが助かった。
- ・各グループともだいたい同じ意見だったが、やはり相手の文化を知ることが大切だと思った。
- ・「ダブル」であることを利点として教育現場に活かそうと思う。
- ・パソコンの能力が必要——資料作りにも役立つ。
- ・人が好きで外国人が好きだということが、自らを学ばせ成長させる。
- ・おしゃべりを重点に一緒に楽しめるクラス。
- ・それぞれの職業で使えることばを学べるクラスにしたい。
- ・先生も学習者も互いの立場を認め合うことができる能力のスキルアップ。
- ・文法をやさしく理解の応用できる能力をつけさせるスキル。
- ・文化の違いを認め合う心が大事。
- ・授業で教えていることばと日常で使われることばが違うことがある。
- ・必要なスキルは提示できるが、そのスキルを自分のものにすることが至難の業である。
- ・日本語を教えた経験のない方の意見が聞けたこと。
- ・質問の意味の理解度にも差が出ていたように思う。
- ・教えられる立場で、教えることがいつも大切だと思う(必要としているものが何かを察知してあげること)。
- ・教室で教える日本語と、巷間で使われている日本語との違いに戸惑っているという話を聞き、そのギャップを埋める方法を考える必要があると思った。



ワークショップトレーニングのもよう



各グループ別に「K J法」でまとめたカード

「一般外国語教授法理論の種類とその特色について」で特に印象に残った点

- ・ 本日の授業の言語学習の説明で、これまで英語の勉強が難しかった理由がわかったように思った。
- ・ 切れ目(Gap)は連語関係でなされること。
- ・ 結びつきの強い所は切れない（主語と補部 強修飾）。
- ・ この文法的理解が得られると今までより楽に話せるような気がする（目からウロコ）。
- ・ 言語能力あつての言語運用であることが良くわかった。
- ・ 英語をはじめ、外国語読解、聴解のポイントが「文の切れ目」にあることを再確認した。
- ・ 講義の内容が「教授法」以外については、ほとんど今までに聞いたことがないことばかりで新鮮だった。特に「文の切れ目」の問題がおもしろかった。
- ・ ある程度の情報伝達ができてからは、次に **Collocation** が大切になる。
- ・ 語句の切れ目がわからないから、わからないということに自分の体験からも納得。
- ・ 語の結びつきの強さという観点について、これから授業で活用していきたい。
- ・ 強修飾と弱修飾の両方があるのを知った。
- ・ 母語と外国語という第二言語の違いがわかった。
- ・ バイリンガルの話が印象的。
- ・ 英語のならびと日本語のならびの違いがあり、日本語のならび方が世界的にポピュラーである。
- ・ 英語の教授法を聞きながら、日本語の指導上の要点を改めて考えさせられた。
- ・ ことばの切れ目と結び付きの強弱はとても参考になった。
- ・ 実際の言語運用においては、文法知識はすべて自動化された状態にある。
- ・ ボキャブラリーはアウトプットすることで増えるので、学習者には極力発話の機会を与えることが重要である。
- ・ 取り入れられた文法知識が自動化されるためには、実際のコミュニケーション場面、またはそれに擬した場面における練習が必要である。
- ・ 歯切れのよいとても聞き易い授業に、自分が勉強した英語教育法の授業を思い出した。
- ・ 外国語教授法の概念。4つの技能のこと。
- ・ 英語の文構造から日本語を改めて考えることができた。
- ・ 外国語を学ぶということで、自分が苦勞してそして身につけられなかったことを思いながら、深く聞き入った。もう一度チャレンジしてみようかな、とも思った。

「日本語教室の実際と教師に求められる指導技能」で特に印象に残った点

- ・ 初級で教える場合、教師は説明に頼った授業をしないこと。
- ・ 文型を実際にどのように使うのか、その使い方を教えること。
- ・ 小道具等（教具・教材）をうまく使うこと。
- ・ 中級を教える時は、初級でやったことを踏まえること。説明はなるべく簡潔にすること。
- ・ 留学生用の日本語授業のレベルが高いことに驚いた。
- ・ 中級レベルの指導は、初級で教えたことを必ず把握しておくこと。
- ・ 中級レベルの指導は、教師が本当の日本語力や、的確な説明のできる力を持たねばならないこと。
- ・ ことばの「意味」ではなく、「使い方」を教える大切さとその教え方が、模擬授業とそれに対する先生のコメント、説明で非常によくわかった。
- ・ 留学生に対する読解指導の内容は、ボランティアとしての初級の指導とはまったく違うものではある

が、今後の指導の仕方、考え方に何か役立つものがあると感じた。

- ・ジェスチャーを採用した入門等の教え方が参考になった。
- ・大学の読解教育（語彙指導を含む）について。以前、大学院合格を目指した留学生の読解指導を試みたことがあったが、今となっては反省しきりである。
- ・模擬授業について。【初級】説明に頼らないこと。スキットや小道具を使ってわからせる。【中級】教師は「日本語で説明できること」に甘えないこと。
- ・教師は初級で教えた文型を踏まえ、説明することばを少なくし、当を得た説明をすることが肝要。
- ・レベルが上がるにしたがって、教師の国語力（日本語力）が問われてくる。
- ・読解の授業は、漢字、単語等、教えることがたくさんあるので、本来の目的を見失いがちになる。
- ・読解の目的は、読んで何が書いてあるか、把握できることである。
- ・中級レベルの授業が見られたのは、とてもよかった。
- ・学生は、書くより話す方が好き？
- ・学習者の視覚や直感に訴えることの大切さ、難しさを少しずつ感じられるようになってきた。
- ・語彙に限られる初級と、無制限に語彙を使用できると錯覚しがちな中級。
- ・中級の日本語の説明に頼った授業は、教師をもスポイルする。
- ・いかに要領よく、段取りよく、端的に、当を得た説明ができるか。
- ・初級最初の段階で、あいさつ文の導入は、すぐに使えるのでとても良いと思った。
- ・大学における授業の様子を初めて知り、時間内に予定の分量をこなすことの大切さを感じた。
- ・現在中級指導をはじめて2年目になる。手探りでやってきたが、今回の授業を受けて、改めて難しさを思い知らされた。
- ・読解の指導法がとても参考になった。
- ・教科書に縛られると、不自然な日本語になるので、日常会話の日本語を使う方がよい。
- ・場面を設定する場合は、小道具を使うとよい。
- ・初級でどのようなことを学んだかを知らないで中級は教えられない。
- ・中級では説明は要領よく、整理して教えることが大切(国語力が要求される)。
- ・初級の教材は、子ども向けでも構わないが、相手を大人として扱うことが大切。
- ・大学生向けの模擬授業では、相手のレベルを推し量りながら教えることが必要である。
- ・模擬授業を担当した人には「教えてあげよう」という意気込みがとても感じられ、お母さんらしいやさしさも感じられてとてもよかった。
- ・模擬授業の担当者は、とても落ち着いていて、学習者が安心して学べるような気がする。
- ・先生の道具のアイデアはすぐに使えそうだった。
- ・授業開始を統一するために、事前にクイズ等をしていること（私自身も足並みを揃えるために、15分程度の「日本語しりとり」や「助詞あてっこ」等を行っている）。
- ・教材の用い方について、いろいろなアイデアがあること。
- ・中級を教えるためには、広い知識が必要。また初級の文型を押さえておくこと。
- ・大学生への読解の教え方は、大変参考になった(日本の文化を同時に教えなければならない点)。
- ・「生活日本語とアカデミックジャパニーズ」の教え方。
- ・初級の指導について、初回から言われている「ことばによる説明で済ませない」ということを再度学んだ。
- ・模擬授業を見て、まさに無駄なことばを入れない進め方の工夫が多くあった。

- ・ボランティアを始めたばかりで、これからなのだが、中級そして大学での日本語の指導まで教えていただき、奥深いものだった。まずは初級Ⅰを「説明しない」でできるよう勉強したい。
- ・初級の鉄則「①説明するな ②文型の意味の説明だけでごまかすな ③使い方をよく日常で使う会話で示せ」をよくよく頭に入りたい。
- ・中級に要求される国語力は、説明せざるを得ない分、それを端的にコンパクトに指導できる必要があり、初級レベルの能力を把握した上でおこなわれなければいけないことがわかった。
- ・読解授業の目的について。まずは作者の言いたい要旨を見つけること。述部にあたる主語を当てさせるのは、より効果的な方法だと思った。
- ・文、文章の切れ目を意識させる大切さを考えた。
- ・初級と中級の授業の違いに驚いた。
- ・中級の授業。日本語のレベルが高いので、本当にその表現が使えるのかと、びっくりした。
- ・模擬授業とその後の解説（補足）を聞き、参考になることがたくさんあった（ボランティアの初級指導のポイントなど）。
- ・説明調は駄目。ごちゃごちゃ言ったことは外国人にとっては理解できない。「音」でしかないこと。
- ・文型の意味を教える場合も、日常の場面（スキット）を使って教えることが大事である。
- ・学習者、教師双方の予習、反省（復習）の大切さ。
- ・「話すだけでは駄目→読めないといけない→少しは書けないといけない」の現実が少し見えてきた。
- ・初級では説明しないでわからせることが必要（会話の場面で使う）。
- ・中級では要領良く整理して教えることが必要（教師の日本語力）。
- ・読解の授業は内容を掴む（作者の言いたい）ことまでやる（文の内容により違ってくる）。
- ・中級授業の内容の深さ、また大学での日本語学習の一端を初めて知った。自分の日本語知識の更なる向上を目指さねばならないことを痛感。
- ・中級では、初級で学んだということを考慮に入れて要点を段取り良く説明することが必要である。
- ・教える側の資質は重要であることを痛感した。
- ・きちんと整理して教えることが求められている。
- ・やはり文法をきちんとわかっていることが大事だと思った。
- ・日本語教師は文型の意味を教えるのではない。使い方を教えるのだということ。
- ・どんなに初級の段階でも大人に対する内容レベルであること。
- ・自然な使い方が大事だということ。
- ・中級の教え方、大学での教え方は経験がないので、よい勉強になった。
- ・初級、中級の模擬、それぞれ工夫がこらされ参考になった。
- ・読解指導の話がとてもわかりやすく、初級、中級入門の教え方の違いなどもよくわかった。
- ・大学での日本語教育、読解の模擬を見ることができてとても興味深かった。想像以上に難しい内容だった。
- ・留学生向けの教え方は、自分で勉強する、調べる、ということが前提になっている点。
- ・初級は説明しない。中級入門レベルになると、やさしい、端的な説明と例文が必要。
- ・読解の目的を考えて指導することが大切。
- ・大学の留学生向けの授業は、ふつう見学できないものなので、とても興味深く面白かった。
- ・初級模擬授業での「も」の使い方。「今日も暑いですね」「私も！」「これもいいですね」など、よく使われる場面、台詞を練習させていて参考になった。

「言語習得理論と第二言語学習をめぐる」で特に印象に残った点

- ・生まれる前から、ことばの素（普遍文法）を持っているとのこと。生物学的にいつ得たのか？
- ・パラ미터：デフォルト値（初期値）から母国語に触れることにより、針が振れる（パラ미터の値）。
以上 チョムスキーの生成理論。
- ・人間の赤ん坊は先天的にことばの素を頭の中に持っている。どの言語にまず触れるかにより母語（第一言語）ができていく。
- ・3、4才くらいでことばをマスターできる。6才くらいになると安定記憶になる。ことばは無限の力を持っている。
- ・「ことば」とは何か、という最も基本的で重要な問題を改めて考えることができた。
- ・「狭い意味での文法」と「広い意味での文法」の考え方を初めて聞き、非常に興味深かった。
- ・少し難しい専門用語があったが、内容が興味深かった。
- ・チョムスキーの言語習得に関する理論が、少し理解できた。
- ・人間がどうやって言語を習得しているか、考えさせられた。
- ・言語により、異なる要素多いこと。
- ・「ことば」とは？ 無意識の世界を改めて考える難しい講義だった。
- ・ことばとは人間同士のコミュニケーションに使う道具であり、意味を持ち、書くこともできるもの。
- ・複雑な文法を持っていることが人間のことばの特徴であり、小鳥が親に教えられなくても鳴けるように、人間はしゃべれるようになる。人間にとってことばは本能である。
- ・母語であれば、ことばとして正しいかどうかは瞬時に識別できる。同じ母語の人は言語知識を共有しており、完全かつ均質的である。
- ・人間は生まれながらにしてことばの素を頭の中に持ち、その構造は専門的には、普遍文法と呼ばれている。ことばを獲得する際に、耳にする各言語の刺激が与えられると最終的に各言語の能力が頭の中にできあがるが、その言語能力の内容が各言語の文法となる。
- ・言語学という側面から日本語を見た場合のあいまいさを再認識したこと。
- ・日本語のコア部分は3～4才迄に形成されているということ。

B 地域の日本語教育を指導・助言する上級教師養成講座

a アンケートの体裁



文化庁日本語教育委託事業

聖徳大学言語文化研究所

地域の日本語教育を指導・助言する上級教師養成講座

全講座を終わってのアンケート

※該当箇所を○で囲んでください。また理由等もお書きください。

1. お住まいは？（松戸市・柏市・我孫子市・船橋市・鎌ヶ谷市・流山市・野田市・千葉市・その他）

2. この講座を何でお知りになりましたか？

（自治体広報・ポスター・チラシ・インターネット・知人から・その他）

3. ご年齢は？

(～20代・30代・40代・50代・60代・70代・80～代)

4. 現在、何らかの日本語教育活動に参加していますか？

(している・していない)

5. 本講座の全体の印象

イ 大変満足

ロ 満足

ハ 普通

ニ やや不満

ホ 不満(理由：)

6. 講義内容

イ 大変わかりやすかった

ロ わかりやすかった

ハ ふつう

ニ 少しわかりにくかった

ホ わかりにくかった(理由：)

7. 講座科目

イ どの科目も興味を持てた

ロ だいたい科目に興味を持てた

ハ 半分くらいの科目に興味を持てた

ニ 少しだけ興味を持てた

ホ ほとんど興味が持てなかった(理由：)

8. 教室の状態・設備

イ 大変満足

ロ 満足

ハ 普通

ニ やや不満

ホ 不満(理由：)

9. 授業の時間帯

イ 大変満足

ロ 満足

ハ 普通

ニ やや不満

ホ 不満(理由：)

10. 今後の日本語教育活動への有益性

イ 今後、大変役にたつと思う

ロ 今後、役にたつと思う

ハ 普通

ニ 今後、あまり役にたつと思わない

ホ 今後、ほとんど役たつと思わない(理由：)

11. この講座に関する感想をどんなことでもお書き下さい
12. この講座を受講した成果をどんなことに役立てたいと思いますか
13. 今後、開講を希望する講座がありましたらお書きください

b. アンケート結果

地域の日本語教育を指導・助言する上級教師養成講座 全講座を終わってのアンケート 23名

住まい	松戸市	船橋市	柏市	我孫子市	千葉市	その他
1	4	5	4	2	3	5

上記にプラスして 鎌ヶ谷 2 流山 1

情報源	自治体広報	ポスターと知人から	チラシと知人から	チラシ	インターネット	知人から	その他
2	3			1		10	9

年令	20代	30代	40代	50代	60代	70代
3		1	4	7	9	2

日本語教育活動に参加	している	していない	していた
4	23		

全体の印象	大変満足	満足	普通	やや満足	不満	回答なし
5	13	9	1			

やや不満の理由:もっと詳しい話、掘り下げた内容が聞きたいと思う内に時間が終わってしまったこと。

講座内容	大変わかりやすかった	わかりやすかった	ふつう	少しわかりにくかった	わかりにくかった	回答なし
6	11	11	1			

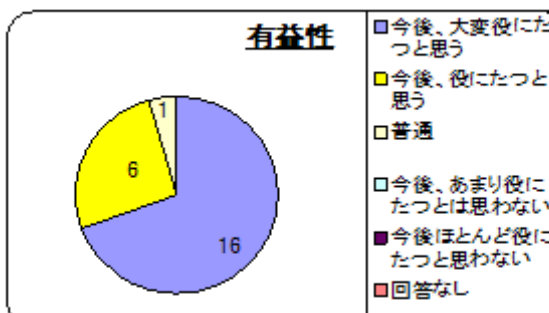
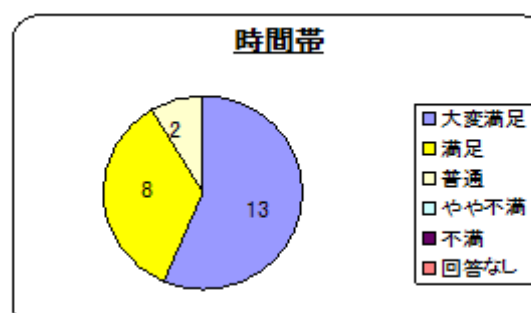
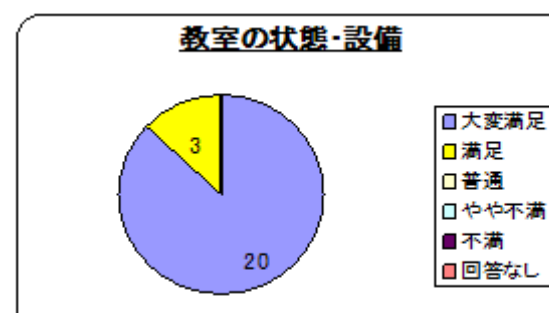
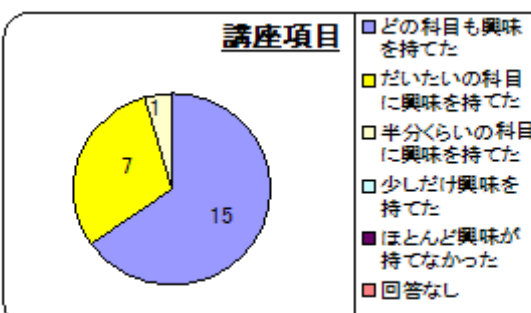
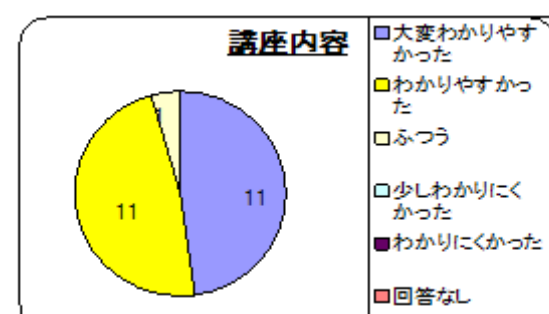
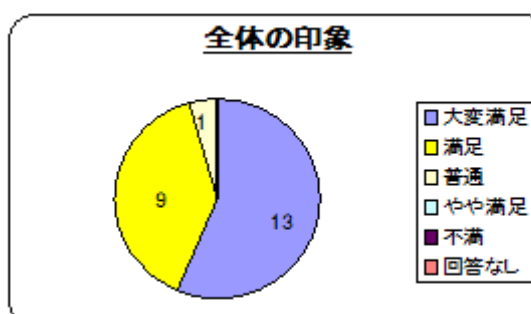
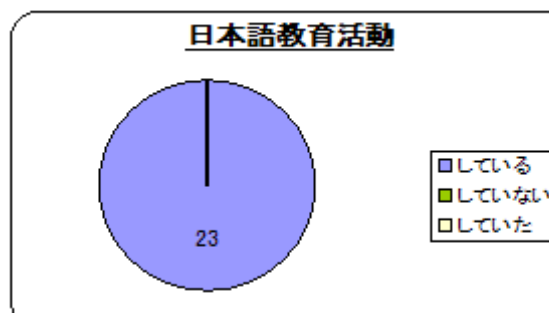
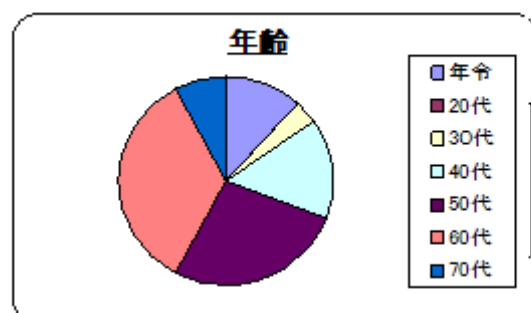
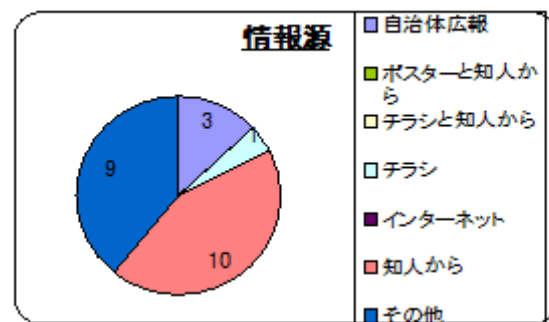
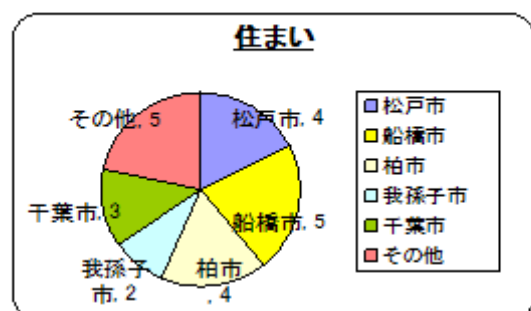
講座科目	どの科目も興味を持てた	だいたいどの科目に興味を持てた	半分くらいの科目に興味を持てた	少しだけ興味を持てた	ほとんど興味が持てなかった	回答なし
7	15	7	1			

教室の状態	大変満足	満足	普通	やや不満	不満	回答なし
8	20	3				

やや不満の理由:冷房が効き過ぎ、集中できなかった。

時間帯	大変満足	満足	普通	やや不満	不満	回答なし
9	13	8	2			

有益性	今後、大変役にたつと思う	今後、役にたつと思う	普通	今後、あまり役にたつとは思わない	今後ほとんど役にたつとは思わない	回答なし
10	16	6	1			



c. アンケート項目

市	年令	この講座に関する感想をどんなことでもお書きください	この講座を受講した成果をどんなことに役立てたいと思いますか	今後、開講を希望する講座がありましたらお書きください
野田市	60代	・検定受験に重点を置いての授業だったので、少しわからないところもあった。		
鎌ヶ谷	50代	・毎回、高度な知識、理論の学習が多かったが、もう少し実際の教室活動に必要な知識も得たかった。	・これからの教室活動に役立てたい。	
鎌ヶ谷	50代	・回数が少なかったので中途半端ではないかと思えるので、最低10回ぐらいは必要ではないか。	・現在、自分の指導している授業の文法等の説明があいまいだったが、そのような事柄について自信を持って説明したい。	・今回の検定試験の問題を中心としたような内容も、幅広い知識が必要となるので、今後もいつかこのような内容の講座があったら良いと思う。
船橋市	50代	・昨年から3つの講座を受講させて頂きどうもありがとうございました。ボランティアを始めてから約2年になるところで、まだまだ勉強不足と痛感しているが、講座で多くの新しい知識を学ぶのは、それがすべて理解できることではなくても、とても楽しい経験だった。一番記憶に残ったのは自分で気づいていなかった間違いに気づかされたことで、それが一番ありがたかったことだった。	・今後のボランティア活動と、いつか受験する時に役立てるようにしたい。	・日本語文法学、日本語に関する講座、検定試験講座を希望。
船橋市	40代	・講義は私にはとても難しく難解なことも多かったが、もう少し勉強しようという意欲が出て来た。	・日頃、日本語を教えている中で、よりくわしく、わかりやすく生徒に教える事ができるようにがんばりたいと思った。	・「みんなの日本語Ⅱ」の文型の導入や、生徒に説明しにくい文法について教えていただきたい。

船橋市	60代	・毎回新しい知識を得、あっという間に8回の講座が終わってしまった。これからゆっくり整理したいと思う。	・特に音声についての新しい発見、知識は初期の学習者に役立てていきたいと思う。	・マンネリになりやすい日本語教室に必要な講座をぜひ、またお願いしたい。
船橋市	60代	・日本語教師養成学校を卒業後、中国（天津、合肥）で5年間、日本語学校・大学にて日本語を教えてきた。しかし、日本語教育を知らないまま授業をしてきたので、学生に対し役に立つ教育ができているのか自信がなく、もう一度原点に帰り日本語教育をやり直そうと半年休職、一時帰国した。そして本講座を知り、参加した。この講座では、今まで何気なく使っていた文章、言葉一つ一つについても掘り下げ、何故そうなるのか、分かり易く分析、解明していただいた。私にもう一度日本語教育を原点から掘り下げて考える契機を与えてくださった。今後の中国での授業において何故そうなるのか本質を掘り下げ、もう少し深い所で日本語教育をしていきたいと思う。	・今月18日、検定試験を受験するが、可否に関係なく日本語の勉強を進めていきたい。 ・こうした機会を与えていただいた聖徳大学、北村教授をはじめ講師陣の皆様、スタッフの皆様に深く感謝申し上げます。	・私自身は、中国人なので、中国に戻り日本語を通して日中の架け橋になればいいと思っている。
船橋市	60代	・検定を受けることを全く考えていなかったが、この講座を受けたことで、広い範囲でたくさんの知識を身につけることの大切さを痛感した。学習者に対しても明快にわかりやすく説明できると思うと、さらに勉強して身につけたいと強く思う。本当にいい講座をありがとうございました。	・この講座で学んだことを実践するためにも、検定を受けようかと今は考えている。ちょうど来年まで一年あるので、日常活動に活かせるように勉強を始めようと思う。 ・ボランティア・グループ質向上のために、仲間にも今回の話をしたいと思う。	・語用論、習得論と、できたらワークショップを含めた講座をぜひぜひお願いしたい。

柏市	50 代	・どの先生も熱心に丁寧に教えてくださったので、助かったが、まず、常に細かい点は自分で学習すべき。日本語講師としての姿勢をいつも考える。	・授業で実施した模擬試験と日本語教室。	・次回も、言語全般についての講義を希望したい(分野が広いので)。
柏市	60 代	・先生方が大変熱心に教えてくださり、感謝している。 ・復習もあったが、新しく学ぶことも多くあり、きちんと勉強し直さねばと反省している。	・所属グループの他のメンバーに、役立つと思われるところを伝えて、グループ全体の実力アップにつなげたいと思う（現に、毎週資料、及びノートをコピーして手渡ししている）。 ・他の受講者の方から、教材をいろいろ教えてもらったので、実際に使っていきたいと考えている。	・発音指導の講座。
柏市	60 代	・初回に選ばれて受講できることを知り、責任を感じた。自分の知識は皆無に等しく、今後体系的に勉強し理解し、最低限のことは常に思い出せるような必要性を強く感じた。	・現場の日本語ボランティア活動に役立てたい。	・検定対策講座を再びやってほしい。復習する時間をとる為。2 週間 1 回サイクルで。基本も理解していないことが多いので、時間が必要だ。
柏市	70 代	・毎回いろいろな事を教えていただき感謝している。自分自身これからも勉強していきたいと思う。出来が悪い私がこのような会に出るのは気が引けたが、参加させてくださり感謝している。スタッフの方々にも大変感謝している。	・私自身がこれから教室で役立てたい。	・日本語教育については、どのようなお話でも聞きたい。またよろしく。
我孫子	40 代	・問題を解きながら、説明を受けることが多かったので理解しやすかった。	・日本語を教える立場として、きちんと日本語の知識を身に付け、地元でのボランティア活動に役立てていきたいと思う。	・日本語の構造をきちんと学ぶ必要があると実感した。日本語学の講座を希望する。 ・子どもへの日本語支援の現状や、問題、解決策などを知り、学ぶ講座。

我孫子	60代	・日本語の知識不足を実感した。 ・「～の仮説」というような高度な理論は、あまり消化できていないが、刺激となった。	・音声指導などにつながるよう、独習するきっかけにしたい。	・音声などもっと詳細に、実習、実技も含めて、学ぶ機会がほしい。
千葉市	60代	・先生のユーモアあふれるお話に、少し固まりかけていた私の脳も活性化されたように思う。 ・試験対策だけでない話も聞いたかった（今回受験しないので）。でも、過去問を解説していただいたので勉強になった。	・毎回のボランティアで、しっかりと自分自身が身につけたことを、生徒さん達に、わかりやすく、日本語を教えていきたいと思う。 ・機会がある毎に今後も研鑽していきたいと思っている。先生のご著書もいただき、ありがとうございました。	・ワークショップを中心とした講座。
千葉市	60代	・いろいろな日本語に関することが、知識として増えたように思う。さらに自分でも勉学を進めたいと思うが、1人では、なかなか進まない。また、研修があれば参加したい。	・学習者に対して、自分のスキルアップを基本にした授業をこころがけたい。	・日本語教育の知識を、実際どう活かすか。いろんなアイディア、より良い授業を組み立てる方法が知りたい。
千葉市	70代	・いかに忘れていたことの多かったことか。聞けば思い出すという状態なので、やはり、折々のブラッシュアップが必要であることを痛感した。	・若い人達に少しでも伝えることが出来ればと思っている。	・できたら千葉でもこのような講座を開いて、地域の人たちに近くで勉強できる機会をつくりたい。
その他	60代	・今回講座を初めて知った。講座の有無はどのように連絡があるのか。自分自身の知識の向上のためにも勉強していきたいので。	・ボランティア講座に役立てたいと思う。	・今後も日本語教育の講座に参加したいと思う。
市川市	60代	・意識改革に役立った。ボランティアだから楽しくというばかりでは教える側としては、学習者に対して失礼なので、内容を充実することが大切。語学を	・理解して実際使える道具として教えたい。	

		体系づけて、分析しながら研究する、ということが必要。		
松戸市	40代	・わからないことがまだたくさんあるが、8回の講義ではなかなか希望通りにいかないと思っている。	・謙虚な気持ちで学習した積み上げがないと、日本語指導の質が年々低下していく。関わった以上は上質な活動を目指したいと思っている。	・母音の無声化を教えてほしい。自習してもよくわからないので。
松戸市	50代	・大変興味深く、おもしろく受けられた。また、このような講座があるとうれしいのだが。	・まず、日本語教育能力検定試験を受けたと思う。 - また、この講座によりボランティアといえども、日本語を教えるにあたって、多くのことを知らないといけないということを、考えさせられた。	・地域で日本語を教えている者へのステップアップ講座、または研修などを開いていただければうれしい。
松戸市	30代	・自分の少ない骨組み（知識）に肉付けが出来た。わかり易い言葉で、わかり易くご教授頂きありがとうございました。来年もまた宜しく。きれいな教室で勉強が出来てとても気分がよかった。	・検定試験の結果。 ・実際の仕事にも生かせると思う。	・日本語教育関係の講座（現場の人向け）を希望する。
松戸市	60代	・日本語教育に携わっている人達への勉強の機会であり、レベルアップ、意識向上となり、各先生達が本当によく教えて下さった。色々表面的なことだけでなく、教えて頂いたことが必ず役立ってくると感じている。	・講座を受けたことにより、先生方の講義から、また仲間から、自分が勉強していかなければならないことに気付いたので、これを受けたことを機会として、勉強を続けたいと思う。	

流山	50 代	・日本語を教えるにあたり、どういった知識が必要であるのか良く理解できた。	・まず、学習したことを整理し自分の知識として身につけ、いろいろな場面で引き出せるようにしたい。	・来年の同時期に同じ内容の講座をぜひお願いしたい。 ・音声の講座をぜひ聞いてほしい。毎年 3 の外国人生徒の受験面接の練習を手伝う。日本語の能力があるのに、母語や方言（例として福建省出身の男子生徒たち）のため発音が悪くたどたどしい感じがする生徒がいる。なんとかしてあげたいのだが。
----	------	--	---	---

d 毎授業に課したレポートの体裁

平成 21 年度 文化庁日本語教育委託事業



地域の日本語教育を指導・助言する上級教師養成講座

（聖徳大学言語文化研究所主催）

レポート用紙

平成 21 年 ____ 月 ____ 日

氏名 _____

授業内容 _____ 担当講師名 _____ 先生

【授業中、特に印象に残った点】

【質問・要望事項】

e レポートの分析

【特に印象に残った点】の項目に記されたもの(各授業別)

「日本語教師に求められる基礎能力」で特に印象に残った点

- ・アスペクトについて、以前より理解が深まった。
- ・「新方言」が若者ことばと関係があったこと。

- ・どの観点から語を見て、それをとらえていくのか、理解できるとおもしろい。自分で考えてみたい。全体的に自分でじっくり取り組むと、非常に興味深い。
- ・アスペクト表現の「～ている」を、時間の流れ（過去－現在－未来）の中に位置づけて教えようとする、失敗するとのことだった。自分の教え方では、時間の経過で教えるように図まで描いていたので、実際には、「食べます－食べています－食べました」としてしか提示していなかった。
- ・問題を解くには、一瞬の判断・文法知識と言語センスも必要とを感じる。
- ・アスペクトについての説明。「～ている」と動詞との関係で、4種に分類できること。
- ・「う音便」について。すっかり忘れていた。
- ・質問文の読み方(自分が目で読んでいると、どこがポイントか見失ってしまうので、先生に読んでいただくと要点がはっきりする)。
- ・過去の助動詞「た」の多彩な用法について。
- ・日本語教育能力検定試験の過去問題やアスペクトの講義を受けて、基本からまた体系的に勉強する必要性を感じた。
- ・検定問題を解く練習をしたが、すぐに判別がつくものと、つきにくいものがある。勉強の仕方がよくわからない。
- ・20年前、千葉大で勉強した「アスペクト」論は、先生が最後におっしゃった時間経緯の説明方法で教わった記憶があり、今までとなくそのままで来たような気がしたので目からウロコだった。ありがたかった。
- ・過去の試験問題に沿って解説を交えて教えていただいたのでよかった。
- ・講義にユーモアがあり、授業が短く感じられた。
- ・アスペクトも漠然とした理解だったのだが、頭の中が整理できたように思える。よかった。
- ・授業のスピードについていくのがちょっと大変だった。
- ・アスペクトの分類について、教員養成講座を受けている頃を思い出し、帰宅してからその時のテキストをもう一度見ようと思った。
- ・検定試験の問題は初めてなので少し難しかった。
- ・アスペクトについて。教えるに難しかった部分が今日の講義で理解できて、とても参考になった。
- ・試験問題をやったが、かなり間違えたところがあり、難しさを痛感した。
- ・試験問題は易いようでとても難しい。解説を聞けてとても勉強になる。
- ・日本語の文法を学べるのはありがたい。教えるためだけでなく、自分の正しい日本語のためにも必要だと思う。
- ・昨年に引き続き、また受講させてもらえてうれしい。ペアで教えたことのある先輩がいらしたので、何とか最後まで出席したいと思う。
- ・試験問題をやってみたが、半分は理解していないことがあったので、やはりこの講座は私にとってとても難しいと思った。しかし以前に教員養成講座で習った時のことばも多く出て（アスペクトなど）きたし、改めてこれからきちんと授業を受けていこうと思った。
- ・日本語教育能力検定試験を受けてみようとは思わないが、今後のボランティア日本語教師活動においてとてもためになることであるし、がんばりたい。
- ・日ごろ日本語教育で使っている構文を何気なく簡単に流しているが、厳密に一つ一つ分析して、なぜそうなるのかを学問的に解明をしていく勉強が重要であることが理解できた。
- ・日本語教育能力検定試験の五択問題でも、解答を導くには、理論的に理由をつけて解明し、納得する

まで追求することがとても大切だと思った。

- ・大学のアカデミックな授業に触れて、「目からウロコ」の連続だった。何となくやっている日本語授業がとても恥ずかしく思った。これからでも遅くない！ 更に努力して日本語を勉強していきたい。
- ・全8回のコースを受講することにより、ノウハウに役立つ知識の引き出しがたくさんできるような気がしている。
- ・アスペクトの種類をまとめていただき、これまでの知識を整理できた。具体的な例を自分でも考えてみたいと思う。
- ・「～ている」文型の導入について。悪い例を示してもらい、参考になった。
- ・自分にはレベルが高くて、つくづく基礎の勉強が大切だと感じた。
- ・ヴォイス、アスペクト、テンス、ムードの関係が、それぞれよくわかった。
- ・動詞の分類について、再認識できた。
- ・試験問題の解き方のヒントが示されたこと。
- ・「ます／ています／ました」の違いを、いつも時間の経過の中で教えていた。いつも難しいと思っていたところだったが、今日の講義でアスペクトの本当の意味が理解できた。
- ・検定試験の問題は私の日本語能力にとって難しいものだったが、先生の解説があるのでとても楽しく解けた。
- ・一度やった過去問だったので再確認になった。
- ・アスペクトのことは理解できたつもりだが、自分で説明できるかな？ と思った。
- ・アスペクト（金田春彦の4つの分類）関連の問題を間違えたのがとても残念であった。
- ・用法を区別する時、文末をきちんと見るのが大切だということ。
- ・何気ない日本語の用法が意外と難しい(実感！)。
- ・アスペクト「～ている」からの動詞の分類、教え方の具体例など、総括したお話を聞けてよかった。
- ・この講座の受講に際して（今年度受験は日程的に無理）、今後の参考までにと、検定そのものについて少し調べてみた。以前の講座でいただいた教本の巻末問題を事前にやってあったため、気持ちの上でゆとりができた。予習は大切だと思った。

「日本語の文字・表記と中級読解をめぐる教授法」で特に印象に残った点

- ・一連の比喩表現（メタファー、メトニミー、シネクドキ）の原理が少しだがわかってきた。あとは練習問題をひたすらやるしかないと思う。
- ・意味記憶、エピソード記憶、宣言的記憶、手続き的記憶、これらは初めて聞くことばだった。
- ・問題は日本語の文脈から推測して正解したが、勉強しておかなければならない分野だと思った。
- ・認知能力と読解の関係について。
- ・認知言語学の発想では、学習者に図で説明するのも良い方法であると思う。
- ・図を使用して、格助詞のニュアンスの違いを教える仕方に興味を抱いた。
- ・部首に関する練習問題は、辞書によっても違うので難しいと思った。
- ・認知心理学用語と比喩表現の種類。
- ・心理的言語学、認知的言語学などの用語、それぞれの意味の区別が問題中の各文で考察すると、わかりづらいものもあるので難しい。
- ・娘は認知科学を専門にしていたと思うが、娘からあまり日本語教育について教えてもらったことがなかった（実はあまりよくわからなかったのだが）。今日の授業でけっこうおもしろいと思った。

- ・格助詞の指導で、「イメージで教える」は、とても印象に残った。
- ・テンポ良く教えてくださったのがよかった。
- ・心理言語学、認知言語学についても要点がわかりやすかった。
- ・メタファー、メトニミー、シネクドキのわかりやすい例文を挙げたことがよかった。
- ・本を読んでいるだけでは頭に入りにくいことばや意味が少しだけ理解できるようになったと思う。
- ・今日の講義内容を自宅でもう一度噛み砕いてみるのが大切だ。
- ・次回もこの講座を楽しみにしている。
- ・日本語の文字表記、文学の歴史や漢字の変化の移り変わり等、学ぶにつれて、学習者・教師は大変だと、難しさも感じた。短い時間で要点をまとめて話してくださったので、流れが良く解った。
- ・方言によって助詞が異なる例が興味深かった。
- ・昨年の講義で、「六書」について説明されたことを忘れていたので、今回もう一度教えていただき、重要なところがわかってよかったと思う。
- ・話し方のスピードが速くて、ついていくのが大変だが、とても楽しい授業だった。
- ・日ごろ、日本語で使用している漢字、平仮名、片仮名、ローマ字についての解説は良く理解できた。
- ・学生からの質問について、絵など視覚的なもので説明する認知教授法を授業で使うことも必要である事を認識できた。
- ・五者択一式問題で、特に比喩表現を特化して演習し、解答の仕方を教えていただき、とても参考になった。
- ・「格助詞の問題」の部分が印象に残った。
- ・日本語学習の初期の段階でも、格助詞のつけ方によってニュアンスが変わることを日常会話の例などで示すことができれば、もっとおもしろく、しかも有効な学習ができると思った。
- ・「千円からおあずかりします」の「から」が、「千円からひいて……」の意味で使われ始めたようだという説明に、身近に使われていることばも気に留めてみるものの必要性を感じた（学習者は日々感じていると思う）。
- ・自動詞と他動詞との違い（「皿を割った／皿が割れた」「息を止める／息が止まる」）漢字表記とカタカナ表記との違い（「煙草／たばこ」「歌留多／カルタ」など）は、ニュアンスの違いが大きく関わっていることがわかった。しかし、まだ自分では十分ものにしていないので、学習者に説明できるように理解を深めたいと思う。
- ・特に格助詞の整理を自分なりにしておきたいと痛感した。
- ・比喩表現は、中級読解でも大変重要になると思うので、勉強になった。
- ・「千円からおあずかりします」のような現実には起こっている会話から、テレビに流れているようなことば使いまで、いろいろ提示していただいたことはよかった。
- ・「お皿が割れた」式の責任転嫁はよく聞くが、他動詞、自動詞で動作主から文を捉えるといった視点の問題や、宮沢賢治の詩に表された微妙なニュアンスの違いなど、日本語の特性に気づかされた。
- ・例をたくさん挙げていただいたので、とても解り易かった。
- ・自動詞、他動詞の部分が苦手なので、時間を長く割いていただけたのがよかった。
- ・いつも先生の授業をもう少し長く聞きたいと思う。
- ・日本語を理解するのに、外国語からの理論が必要なのだということ。
- ・幅広い知識が得られた気がする。興味深く拝聴した。
- ・比喩表現についてが、私にとってはハイライトだった。

- ・漢字書体の変遷について。
- ・認知能力を応用した教え方。視覚に訴えて教えるということ。
- ・比喩、メタファー、メトニミー、シネクドキ わかったつもりでいたが、やはり苦手である。
- ・地域方言で示された「京へ筑紫に坂東さ」というフレーズ。

「日本事情と異文化コミュニケーション」で特に印象に残った点

- ・尊敬語、謙譲語、丁寧語というⅢ分類が、さらにⅤ分類になるとは！
- ・言語の分類と文化による理解度をどうするか。
- ・待遇表現の難しさをますます感じる。文化の違いの理解が必要。
- ・談話構造の分析に興味があった。
- ・世界の言語の中で、日本語はウラル語族、マラヨ・ポルネシア語族などと関係があることをはじめて知った。
- ・言語の分類について、膠着語、屈折語、孤立語等、初めて聞くことばがたくさんでた。
- ・待遇表現は大変おもしろかった。
- ・世界の言語（語族、語派）について。
- ・敬語のⅡ分類、対者敬語と素材敬語、相対敬語と絶対敬語。
- ・ブラウン&レビンソン、終助詞「ね」「よ」、チョムスキー、この3項目を調べて整理、理解したい。
- ・日本語を学習している外国人の日本語がうまいと日本人が思う時は、ことば以外に、話をする時の態度も関係している、と言う事がわかった。見落としがちになりそうなので留意したい。
- ・今まで学習者の会話中に不快に感ずる表現があったが、なぜかよくわからなかった。その原因が、領域と、なわばりの問題であったことに気づき、何かコロンブスの卵的な思いをした。
- ・敬語の教え方の問題についても、ご注意くださいったことを心に留めて、これからも勉強していきたいと思う。
- ・異文化理解へのアプローチ、日本語は特にコンテクスト依存性が高い。
- ・異文化理解へのアプローチ、ステレオタイプの問題。
- ・今回も問題を解きながらの授業の進め方がよかった。
- ・敬語表現では談話の例文が多くてよかった。
- ・たくさんの知識をつけていただき、ありがたかった。家でもう一度確認するつもりだ。
- ・いろいろと勉強することが多く、少々疲れた。
- ・異文化コミュニケーションをもう少し詳しく勉強したいと思った。
- ・前半は新しい学びが多かったので難しかったが、先生の解りやすい講義に集中できた。
- ・後半は日ごろの問題点が多く出題されていて、とても有意義だった。
- ・スピードが速くてノートをとるのが大変だったが、色々なことを教えていただけて嬉しい。
- ・日本語はウラル語族に属すると思っていたが、不明だということがわかり意外だった。
- ・専門的なことばが色々出て来て、難しい所もたくさんあったが、異文化コミュニケーションのあり方を、今一度考えさせられて、とても勉強になった。
- ・談話の例がとてもおもしろく、印象に残った。
- ・異文化コミュニケーション……「明確にメッセージを伝える努力」の必要性。「あ、うんの呼吸」の日本人との意識の問題。
- ・言語は文化の根源だということ。

- ・同じ言語を話す者同士の文化は、異なる言語を話す者との境界を作りやすい。
- ・語用論、協調の原理。
- ・世界の言語分類（孤立語、膠着語、屈折語、包摂語）。
- ・関連分野の問題が適宜織り込まれていて有意義であったと同時に、検定試験がとても難解であるとも再認識させられた。
- ・「学習者の文化を認め、バランスよく日本文化もとり入れて日本語教育を行うことが大切である」という点、気をつけて授業をしたいと思う。
- ・ノーム・チョムスキー、普遍文法、生成文法。
- ・広範囲のことを簡潔に教えてくださった。
- ・異文化の多様性を求める方向に動いているということは、それだけ国際化が進み、人々が異文化の中にあるという流れと一致していると思った。
- ・日本人の言語行動の特色を聞いて、改めて日本、日本語、日本の文化などを考えるきっかけになった。
- ・「KY」ということばができたのも日本の文化によるものだという事がわかった。
- ・談話文のことをたくさん教えていただき、よく理解できた。
- ・問題を教えていただいたので、重点整理ができそう。
- ・語族・語派をきちんとまとめて教えてくださった点。
- ・日本語らしさについての話は最もおもしろかった。
- ・インドネシア、フィリピンからの看護師、介護福祉士研修者の日本語の問題。資格試験のチャンスが1度だけとはあまりにも酷である。
- ・短時間に盛りたくさんの内容だったが、先生の解説がとても分かりやすく、ためになった。
- ・問題をやった後の解説は、とてもわかりやすかった。
- ・日本語の表現の難しさを再認識した。
- ・日本人の言語行動の特色。
- ・大変よかった。今持っている知識の上にしっかりといろいろ上乗せさせていただいた感じで本当によかった。

「日本語文法と日本語教育 品詞論と構文論の基礎理論」で特に印象に残った点

- ・グライスの「会話の公理（強調の原理）」について。
- ・文法を教えてばかりいても話せるようにはならない……本当です。ことばを教える時、注意することですね。
- ・語用論と会話者の意識についての関係。
- ・慣用句の誤用（説を曲げる→節を曲げる／愛想を振りまく→愛嬌を振りまく）。
- ・会話の中で、多くの例文を示して教えることが重要である。
- ・慣用句について（気付かずに誤って使っていたものが、いくつもあったので）。
- ・話して役立つことを教えること。場面の設定をすることが大事（なかなかいいものがない）。
- ・ボランティア教師の間で、授業内容の意見を話し合えるようなシステムがないと、このグループは次第にしばみ上向きになれない。
- ・語用論は機能として教える。会話メッセージとして教える。その為には、良いシチュエーションや例文が重要。
- ・慣用句の問題は自分の間違いの多さに驚いたが楽しかった。

- ・ 本日の問題は、前回までの内容に比べて取り組みやすかった。
- ・ アスペクトの問題でいつも悩んでいた。中国で 1、2 級をとって来た学習者は、テンスとの関係をしつこく聞いてくる人がいるが、これからは、機能中心に教えていこうと思った。
- ・ 日本語教育に携る私たちへの心構えを教えていただいたこと。
- ・ 語用論では会話の機能が大事である(教える時のポイント)。
- ・ 質問時間が長くあってよかった。
- ・ ボランティアの運営の難しさを感じているので、冒頭の先生の話がとても身にしみた。
- ・ 慣用句も間違って使っているものがあり、再確認させられた。
- ・ 「フィラー」「スピーチアクト」などカタカナ語が出てくると、聞いたことはあるが何だったかと、忘れていることが多いのにガッカリしてしまう。
- ・ 「50の誤用例のプリント」は楽しめた。
- ・ 教え方として「しゃべる機会のある、メッセージとなる例文」を指導するようにしたいと思う。自分の教え方がマンネリ化していないか考えてみたい。
- ・ 語用論の講義を受けられてよかった。
- ・ 会話文の時には、イントネーションや口調で、気持ちが違うということをこれまで以上に教えたい。
- ・ テスト問題をやりながら広い範囲に亘って必要な基礎知識の多さを知らされた。
- ・ 誤用訂正の問題は、例文を見た時、すべて正しいと思ってしまった。外国人学習者にとっては、とても大変な事だろうと思った。
- ・ 日本語教育能力検定の試験問題がどういうものか、少しでも分かってよかった。
- ・ 誤用例には、自分もたくさん間違った使い方をしていることに気付いた。こういう表現を使える外国人はかなり日本語を勉強している人達だと思うが、自分も一緒に勉強していくことが常に必要なのだと授業を受けて痛感した。
- ・ 品詞について、もっと勉強しなければいけないと思った。
- ・ 文法上のことばが分からない所がたくさんある。基本的な勉強からしてみるつもり。
- ・ 慣用句等、授業はとてもおもしろかった。少し教養がついた実感を抱きながら帰ることができる。
- ・ 日本語教室のマネジメントのあり方について、貴重なお話を頂いた。なかなか難しい問題で今後も教室でも話し合ってみたいと思う。
- ・ 日本語会話授業で学習者の会話技能向上には文法の基本的規則をしっかりふまえた上の授業を展開する必要性を痛感した。
- ・ 質疑応答の時、「～ている」の使い方を会話の中で教えるという説明は、私にとっては画期的なものだった。さっそく学習計画を立てて取り組んでみる。
- ・ 「語用論」は大変納得のできる考え方だが、まだわずかの知識しかないので、もっと勉強したいと思う。
- ・ 文法の勉強が不足していることを痛感した。
- ・ 「組織の中でどのように全体の方向性を統一させるか」の大きな課題に向けての議論の中で、各人のバックグラウンドが重要である(私達の努力の積み重ねが必要)。
- ・ ら抜きことばの変遷。
- ・ 発話の機能を教え、会話能力を養うことが大切である。
- ・ アスペクト「～ている」の教え方。どういう場面で使うのか。使い方を会話の中で教えること。
- ・ 慣用句の間違い探し。「そうか!」と思う問題がたくさんあった。

- ・「会話：機能から導入する」ということを再確認した。今まで自分は説明調だったと思う。
- ・所属の会の方針等、会や組織への指導（個人でなく）が必要だと思った。
- ・いつも思うが、先生は一般の人にもわかりやすいことばで楽しませながら教えて下さるので、頭にも残り、楽しく勉強できる。
- ・誤用例のハンドアウトはとても参考になった。
- ・日本語教育能力検定試験を受けようと思っているので、検定問題が多く含まれている講義は本当に救いになる。
- ・「グライスの協調の原理」は、自分でも勉強したばかりの所だったので、良いまとめになった。
- ・慣用句 → 気にしないで使っていることばがずいぶんあり、勉強になった。
- ・慣用句の誤用例の中に、自分でも使っているものがあつたので、反省した。
- ・理屈ではなく、使い方の例で覚えさせることによって理解させること（アспект）。
- ・様々な誤用をふまえたクイズのような問題が興味深かった。「日本語D o t c h」の本や「日本語が大変です」などのTV番組を思い出した。危機感を持っている人が多いのだろう。
- ・検定試験問題4題、先生の解説で良く理解できた。
- ・受講者からの質問に対する先生の答えで参考になるものが多かった。
- ・基礎的なことから説明で、わかりやすかった。
- ・問題の内容で「不適當なもの」と書かれていると、つい混乱してしまう。

「言語理解の過程と言語習得・発達の基礎」で特に印象に残った点

- ・外国人の子どもに対する日本語教育。いろいろ問題もあるが可能性もみつきたい。
- ・学習内容はそれなりに体験により想像できる部分が多いが、個人名、その方法の命名は記憶するのが大変。
- ・日ごろから異文化にも目を向けていることが大事。
- ・日本語教育には広範囲な知識が必要。
- ・前回に教えていただいたことが頭に入っていないので困ったことだと反省。
- ・問題集は落ち着いて読めば少しはできそう。
- ・バイリンガリズムにおける理解……バイリンガルの子供に教えるときにちょっと頭に留めておいたらいいであろうと思った。
- ・それぞれの教授法を知っておいて、自分の授業にうまく取り入れる（どれが正しいかとかではなく）。
- ・児童関係の過去問題は日本語のインストラクターとしての姿勢に即役立つ。
- ・言語習得に関する様々な理論と各々の理論の提唱者名を学習したが、このような内容は試験用の知識とはなるが、実際の現場で日本語教育をするにあたってどれくらい役に立つのかいまだに疑問に思う。
- ・十数年前に学習した固有名詞がたくさん出てきて、こんなにたくさん忘れていたかと驚くとともに、今日の授業にはほとんどついていけなかったように思う。
- ・言語習得理論の第二言語習得研究の流れで、様々な理論が紹介された。
- ・過去問題が難しかったこと（知識全般が求められること）。
- ・教授法の流れをまとめてくださったので、少しわかりやすくなった。
- ・子どもの日本語教育の現状について テストをしながらよくわかった。
- ・いろいろな術語を覚えるだけでも大変だなと感じた。
- ・第一言語獲得と第二言語習得の違い／バイリンガル、子どもを教える上で常に気にしていることなの

で、とても興味深くよく理解できた。

- ・教授法の理論は以前にも学んだことがあるのに、名前はなかなか覚えられない。
- ・とても聴きやすい講義だった。
- ・試験問題で練習し解説していただいたのでとても実践的だったと思う。
- ・各理論の要旨と理論を提示した学者名について初めて聞くことが多く、整理して覚えなければならな
いと思った。
- ・教授法の学習に「異文化」の問題や行政に関する知識も必要だということがわかった。
- ・過去問をやらせていただいて 文章の読み取りの浅いことに気がついた(うっかりミスをなくさない
と、と反省)。
- ・各理論の提唱者名も必要だということを痛感した。
- ・説明は明解でよかった。
- ・提唱者の名前などはなかなかまとめて覚える機会がないので今回まとめていただいてとても助かった。
- ・教授法のところはもう改めて勉強する必要がなくなった。
- ・外国人児童の置かれている状況や実態を改めて考える良い機会になった。
- ・覚えることがたくさんありそうだ。
- ・オリエンテーションでの予告どおり、検定を意識した授業でとてもよかったと思う。
- ・必要な基礎知識を大変わかりやすく教えていただいた。
- ・検定問題平成 19 年度 外国人児童に対する日本語教育の問題は現在小学生の外国人児童を指導して
いるので、とても参考になった。
- ・敷居理論について。
- ・フォーカス・オン・フォーム、フォーカス・オン・ミーニング、フォーカス・オン・フォームズの違い。
- ・第二言語習得のプロセス。

「言語の構造一般と日本語の語構造理論」で特に印象に残った点

- ・テンス、アスペクト、ヴォイス、ムードが今までより少しわかった。
- ・主節、従属節等、本当に何も考えずに日本語を話していた。
- ・節の考え方について、考えさせられた(日英比較して)。
- ・従属節の種類の名称。
- ・ソトの関係について。
- ・結束性については初めて聞くお話で印象が深かった。
- ・「テンス」ではない辞書形、「タ」、「～ている」については、いろいろな用法があるので要注意。
- ・「内の関係」「外の関係」。
- ・現在教えている中で、ちょうど「アスペクト」の「完了、結果の残存」の「～てある」「～ている」の
説明に迷っていたので参考になり、助かった。
- ・これまでに解いた問題の中で、本日の問題は実際の指導にすぐに役立つと思った。
- ・日本語の構造で日ごろなにげなく使っている受身の直接、間接の区別が勉強になった。
- ・パワーアップ問題が難しかった(問題を解くのにヒントを頂いてよかった)。
- ・直接受身、間接受身がなんとなく理解できたような気がする。
- ・ヴォイス、アスペクト、テンス、ムードの違いが理解できた。
- ・複文について、内容節、引用節、補充節などの説明……よくわかった。

- ・テンス、アスペクト、ヴォイス、ムードを簡単に整理してくださり、とてもわかりやすかった。いつも意識しないで自然に使いこなしているだけに区別が大変。
- ・後半の複文は名称が多く大変難しく覚えられなかった。
- ・とても楽しい授業で難しい内容があまり緊張せずにかがえた。
- ・明るくてさわやかな語りはとても聞きやすかった。
- ・覚えたかどうかは別として、先生の説明もよくわかったし、時々整理しながら教えてくださったので、とてもよく理解できた。
- ・先週休んでしまったので、バイリンガルについて勉強できず残念だった。外国人の生徒さんの子ども達へのことばの問題は多く見受けられる。一番は親の関わり方が重要。
- ・テンス、アスペクト、ヴォイス、ムードについて整理して明確に講義していただき、理解が少し深まった。
- ・「日本語の構造」の内容がたくさんあることに驚いた。今日一日ではとても理解し切れなかったが、以前耳にした「内・外」の関係を詳しく説明していただいたので助かった。
- ・練習問題で更にたくさんの事を学ばなければいけないことがわかり驚いている。ただわかればまた説明することができるのでこれをきっかけに頑張りたいと思う。
- ・いまひとつ不明確だった「テンス」「ムード」が明確になった気がする。
- ・文法上の用語が出てきて混乱寸前でしたが今回の説明で少し整理できた。さらには自分なりにまとめておきたいと思う。
- ・一生懸命に受講者に役立つよう文例等も試験問題と関連して一つ一つ心を込めて作っている若い先生の姿勢にひたむきさと前向きなものを感じた。
- ・わかりづらく覚えにくいところを、いつも一緒に考えながら進めてくださるので私にはわかりやすい。直接受身、間接受身をあらためて考え、使役の作り方も復習しようと思う。
- ・大きなきれいな字でうれしい。ありがとうございました。
- ・「内」「外」の関係が混乱しそうだ。
- ・今まで理解しにくかったテンス、アスペクト、ヴォイス、ムードの概念を上手く説明して頂き、頭の中がすっきりした。
- ・複文——特に内・外の関係は難しかった。
- ・レジュメに余白が充分にとってあり、書き込みがしやすかった。
- ・自分のノートを整理しているような感じでわかりやすかった。
- ・たくさんの例文を出して理解させようとした点。
- ・誠意あふれる授業で一つ一つ勉強になった。
- ・日本語文法の奥深さを改めて感じた。

「日本語の音声・聴解と日本語の構文論」で特に印象に残った点

- ・具体的な発音指導がとても有効に思える。
- ・発音記号を見て正しく音が出せない。
- ・調音点、調音法、自分で確定できるようにトライしたい。
- ・実際の授業に意識して取り入れたい項目だった。
- ・拍の問題について。
- ・音声器官の名称。

- ・音声記号表（調音点・調音法）の再確認をする必要を、授業を受けて感じた。
- ・先週の講義では、「ウチとソト」、受け身の話でわからなかったところが、先生の話でわかった。
- ・音声は何回教えていただいても難しいところが増えてくる。
- ・連体修飾の説明、ありがたかった。少しスッキリした。
- ・音声の復習になった。
- ・音の高低、長音を教える時、手を使って示すと理解してもらいやすいということ。実践したい。
- ・連体修飾節、「ウチ」「ソト」など、外国語には無い用法なので、教える側もきちんと理解して教える。
- ・「られた」には種類があるので、判別ができるように理解しておく。
- ・異音、音韻、拍、モーラ、アクセントの4つのルール、長音の特色、基本を知って教えるべき。
- ・受け身の指導をする時は、迷惑の受け身の例文をたくさん練習すると良いこと。
- ・長音の発音がなかなかできない学習者の指導は、「最初から厳密さを求めなくてよい」との説明だったので、気が楽になった。
- ・音節のところで、関東人と関西人では音節の数え方が違うのではないかと思った。
- ・どうやら私は「センセイ」と言っているようだし、無声化のところで「母は～ですう」と言っていたように思う。
- ・受け身について詳しく教えていただけて、よかった。
- ・音声は私たちが教える時にとても重要なのでしっかりと押さえておきたい。
- ・具体的なアドバイスが聞けてよかった。
- ・本を文字だけで追っていると、非常に理解しづらい音声のことが少しわかったような気がする。
- ・新出単語の時、長音は手を使って示す技法。
- ・アクセントの指導を「歌うように指導する」ということ。
- ・生徒に音声を直す時の指導について（中国人の長音、濁音）。
- ・日本語の受け身表現について。
- ・間接受け身と直接受け身の説明で少し理解できた。
- ・受身文、連体修飾について、自分の見解の誤りや不透明な点が良く理解できた。
- ・音声について昨年の講座内容を思い出しながらもやはり難しいことだと思った。
- ・直接と間接の受身の違いがとても難しいと感じる。
- ・音声について説明を受けるとわかるような気がするが、実際に教えるのは難しそうなので、国別の特徴等をボランティア同士で教え合うといいと思う。
- ・英語の音声学で学んだ時もそうだったが、音声の名称が覚えづらく、いつか試験を受ける時はネックになりそうだ。
- ・音声のことは、とても興味がある。随分忘れていたが、また新たに勉強させていただき、とてもためになった。
- ・とても充実した三時間だった。
- ・ふだん、なかなか学習しにくい音声学をわかりやすく授業していただき、とても参考になった。
- ・どのようにして音声が作られているのか。それを教師が知っているか、知らないか。学習者の発音についてなぜそうした発音になるかを分析し、授業で生かしていくことが大切であると思った。
- ・音声学の本を読んだだけでは解らなかった部分がとてもよくわかった。
- ・口腔断面図の見方を詳しく説明していただいたので、今後しっかり頭に入れたと思う。
- ・質問に対してわかりやすく説明していただけたので、大変助かった。

- ・音声関係の知識について、教える側のバックグラウンドとして大変重要であると痛感した。
- ・中国人、米国人に日本語を教える時、はじめはゆっくり歌うように教えると良い。
- ・母国語を教える時、特に音声の部分が無意識だと思う。しっかり勉強しなければと感じた。
- ・音声が自分の中で一番弱い部分だったので、まとめになった。検定までに今一度、おさらいをしようと思う。
- ・受身の解説、とてもわかりやすかった。
- ・今日は時間がとても短く感じられた。
- ・日本語教師としては入り口にいると思い知った。
- ・間接受身と直接受身について。
- ・受身の話が興味深かった。
- ・日本語の受身には、いろいろなタイプがあり、それを判別する目を持つことが大切。
- ・学習者の発音やアクセントを正しく聞き取るためには正しい知識が必要。
- ・新出単語を教える際、長音、促音をジェスチャーなどで注意を促すことを忘れない。
- ・音声関係の問題は、私には難しすぎた。
- ・ヴォイス、直接受身と間接受身との違い、などが印象に残った。

② 実施主体からの研修内容結果評価

A 職業スキルを活用する日本語教師養成講座

a. アンケートからの分析

- ・全体の印象については、「大変満足」が21%、「満足」が60%で、大多数が満足したという結果になった。トータルとしての講座の満足度は大変重要であり、この結果は悪い数値ではないが、できれば「大変満足」の数値をもう少し期待したいところであった。
- ・講座内容に関しては、「大変分かりやすかった」、「分かりやすかった」を合わせると、90%となり、ほとんどの受講生が内容については理解が行き届いたと答えている。
- ・講座科目についても「興味を持てた」が91%となっている。これは、事前に講師や講師補助に「つとめて具体的で現場に還元できる内容にしてほしい」との要望を伝え、努力してもらった結果であろうと思われる。また、受講者に毎回課した授業終了時のレポートに「質問欄」を設け、疑問に直接・間接に応じたこともよかったのではないと思われる。
- ・「教室の状態」、「授業の時間帯」、ともに満足度が過半数を超えている。一部、エアコンの調整についての不満もあったが、後半期にはほとんど不満が出ていない。
- ・ボランティアへの有益性については、「今後大変役立つ」と「役立つ」を合わせ、90%近くを占めたことは、大変よかったと思われる。
- ・全体として、アンケートの数字からは、有益な事業であったといえるのではないかな。
- ・「職業スキル」ということについての考察では、ディスカッションやワークショップなどを実施し、一律の定義で括るのではなく、さまざまな立場・経験からその認識と日本語教育との関連をさぐってもらったが、あまりにもいろいろな見解が出て、多少混乱した感想もあったようだ。

今後は、これらの結果を後の授業の中で、うまく活かすような工夫を試みたい。

- ・「3 時間があったという間で、時間の長さを感じさせない講義だった」との感想あり。授業内容の充実を示しているようだ。
- ・今回も「近隣市との交流ができてよかった」との感想が多かった(他市、他団体との横のつながりができた)。
- ・全体的に、今後の有益性、役に立つという感想を持ってもらえたことは非常に良かった。

b. 企画委員からの評価・意見

- ・受講生の日本語指導者との資質にかなり差が見られた部分もある。本講座の性質上、これまでの自分の職業スキルを活かした「ふくらみのある日本語指導者像」を狙うのが目的ではあるが、まったく日本語教育に対しての予備知識がない受講生は、周囲の受講者に圧倒されたり、とまどったりしたかも知れない。入門講座を兼ねる難しさがあった。
- ・ディスカッション、ワークショップの形式をとったことは、いろいろな可能性を自らの経験などから探り出し、また他人の意見も多く聞けて、奥行きのある研修にしていたと思う。また、講師から、その目的、段取り、態度、留意点などの説明を事前にレクチャーされたのもよかったと思う。ただ、やはり、事前研修があったとはいえ、司会者やファシリテーターの役割は難しく、話の方向を左右する影響を持つだけに、ある意味では講師補助者と同等の高度な素養が必要なことも確かだ。

B 地域の日本語教育を指導・助言する上級教師養成講座

a. アンケートからの分析

- ・全体の印象については、「大変満足」が 56%、「満足」が 39% で、95%以上が満足したと答えている。
- ・講座内容に関しては、そのレベルを日本語教育能力検定試験のレベル並にしようということで設定したので、当初はかなり難解に感じる受講者も出るのではないかと危惧したが、結果としては、「大変分かりやすかった」、「分かりやすかった」で 95% 以上を占めた。これも、講師や講師補助の噛み砕いた丁寧な説明が功を奏した結果だとしてよいであろう。
- また、毎回、授業終了時に受講生に課したレポートの記述を丁寧に拾うことにより、受講生の率直な感想、理解度などを分析できたことにもよるものと考えられる。
- ・講座科目についても「興味を持てた」が 95%以上 となっている。これは、受講生の向学心が大きいことも示すものであろう。
- ・「教室の状態」、「授業の時間帯」、ともに満足度が大きいものとなっている。
- ・ボランティアへの有益性について、「今後大変役立つ」と「役立つ」を合わせ、これも 95%を占めたことは、大変よかったと思われる。
- ・全体として、アンケートの数字からは、有益な事業であったといえるのではないかな。
- ・単なる知識増大の講座とならぬように講師などとも意見調整をしたことが有益であった。ただし、この講座の本来の目的である「地域の日本語教育を適切に指導・助

言できる教師の養成」のためには、単に高度な知識がある教師を期待するだけでなく、具体的にどのような方法で「助言」や「指導」をおこなえば効果的なのか、といった面についての検討・具体案を今後は多く言及していくべきであろう。

これについては、各団体の実態やシステムなどを踏まえて考察せねばならず、一概に一つの論法を打ち出すことは非現実的なものにもなる。そのためにも、地域ボランティアの個々の現状を、受講者から率直に聞く機会を作りたいとの意見に従い、講座終了後の懇親会実施についての案も検討した。

b. 企画委員からの評価・意見

- ・日本語教育能力検定試験の受験対策講座になってしまわないかとの危惧もあったが、ふだん、ボランティアの日本語指導者が学習できない高度な言語学的知識を集中的に研修できたことはよかったし、また歓迎もされていたようだ。
- ・ただし、優秀な指導者を養成しても、全体の組織の中で、そうした人材がはたして周囲をも向上させられるのか、どのような方法やシステムを構築したらよいのかは、個々の指導者の問題ばかりでなく、組織全体の問題に関わってくるものでもあるので、そうしたことを積極的に研究する場も必要だと思われる。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

現在、松戸市、我孫子市、柏市をはじめ、東葛地域の多くの市では、外国人在住者が増大する傾向にあり、各市の設置する国際交流協会のボランティア日本語教室などの参加者もそれに伴って増大している。

その反面、地域日本語教室などでおこなわれている多くの日本語指導法は、従来の構文中心の文法重視型知識教育から抜け出せず、外国人が要望する実践的で日常生活を支える日本語指導となっていない傾向が指摘されている。また、こうした日本語教育にあたってボランティア等の指導者の能力は、個人別に見るとかなりのバラつきが生じているのが現状で、多くの団体から全体の質の向上と実践的な研修の必要性を訴える声が上がっている。

これまで地域日本語教室において、効率的、実践的日本語指導をおこなうためのスキル、知識などを中心に、研修を積み重ねてきた。しかし、日本語教育を単なる一般的言語習得の枠内で考えるのではなく、日本語会話を通じて、外国人が日本の地域社会とどう関わっていけるのか、またそのためには従来の指導に何を上乘せしていくべきか、といった視点が欠ける嫌いがあった。今後はこの点に留意した形で、研修を継続する計画である。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

今回の研修講座(AおよびB)には、以下の団体からの応募があった。

我孫子市国際交流協会日本語教室
船橋市国際交流協会中央公民館日本語教室
地域っ子プロジェクト 東部公民館日本語教室

鎌ヶ谷市国際交流協会日本語ボランティア教室
流山市国際交流協会日本語講座
NPO 外国人の子どものための勉強会
柏市中央公民館日本語教室
松戸市国際交流協会日本語ボランティア会
野田市国際交流協会日本語教室
センシティ土曜にほんご学級
さくぶん org (ボランティア作文添削)

これまでも、聖徳大学言語文化研究所Bプロジェクトでは、JSL（Japanese as a Second Language＝第二言語としての日本語）児童・生徒のための日本語教育研究を、平成18年度から設置した報告者会議、研究班会議（主として松戸市教育委員会学校派遣員からなる特別研究員の研究組織）を中心に進めてきた。今回の研修講座開講を機会に、上記の諸機関・団体とより積極的な連絡を取り合い、今後も地域の実情に有益な共同研究を進めていきたい。

② 研修後の人材活用

今回の受講者の中から、今年度の聖徳大学言語文化研究所Bプロジェクト研究に参画してもらう人員を選定する計画である。

また、今回の研修講座を修了した受講者に、さらに研修を継続できる機会をつくり、地域全体の質向上、発展に寄与しうる人材を養成していきたいと考えている。

(12) 今後の課題

昨年度に実施した研修講座に引き続き、今回の研修講座で大きく浮かび上がった問題の一つに、やはり、ボランティア日本語教室で教える日本語表現の「実用性」の問題がある。

これは使用されている多くの教科書の構成、教授法理念が、現実のボランティアでおこなおうとしているサバイバル日本語教育とかなりずれてしまっている、という要因も大きい。特に日本語教育に携わったばかりの指導者は、日本語の単純な知識を教えることに精一杯で、そこで教えられる日本語会話能力が外国人のニーズと合致しているか、また有効性、実践性があるものになっているか、の考察ができにくいことにも原因がある。

昨今、日本で生活する外国人の地域社会共生という問題がクローズアップされているが、地域ボランティア日本語教室でおこなわれている日本語指導では、日本語学校でおこなわれている語学的日本語指導ばかりでなく、より積極的な「地域適応型日本語教育」、また「地域参加型日本語教育」が考えられねばならないのではないだろうか。

今回の「職業スキルを活用する日本語教師養成講座」における奥行きをもった日本語指導者の養成、また「地域の日本語教育を指導・助言する上級教師養成講座」における実践的会話能力指導になるように助言し得る日本語指導者の養成も、そうした地域日本語ボランティアの重要な責務を鮮明にするための礎となるであろうことが期待される。

こうした点を踏まえ、聖徳大学言語文化研究所は、今後、以上の「地域適応型日本語教育」、また「地域参加型日本語教育」を推し進められるような日本語指導者の養成ということにも、いっそうの努力を傾注し、地域との研修・協議もはかりながら、取り組んでいくつもりである。